

発想を変える
私たちが変わる
世界を変える

PARK St.



PARCとは？

わたしたちの暮らす社会のこと、世界とのつながり——。一緒に考えてみませんか？

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center)は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をつくることをめざして様々な活動に取り組んでいます。南の国々・人びとの状況や国際的な課題についての情報収集、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、調査研究活動を通したオルタナティブの提案とともに、雑誌『オルタ』、PARC自由学校、開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通した情報発信を行なっています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくりだすことと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをPARCはめざしています。

調査研究活動

PARCでは国内外のネットワークを活かして、国境を越えた調査活動を行なっています。これまでに、アジアにおける自由貿易地域研究、日系多国籍企業研究、バナナ・エビ研究、グローバリズム研究などを行いました。自分の足で歩き、自分の目で見て、手でさわって、匂いを嗅ぎ……。ということを基本に、専門家に頼らず自分たちの力で調査する「はだしの研究者」を生み出していくことも目的としています。

◇最近のグローバリズム研究：ニューエコノミクス研究会／コンビニ／ブラック企業／鉱物資源の収奪／バナナ／ファストファッション など



政策提言・キャンペーン

海外/国内のNGOや社会運動と連携し、政府開発援助 (ODA) や貿易、債務問題、貧困削減などの 이슈について、日本政府や国連諸機関、IMF/世界銀行などの国際機関への申し入れや提言を行なっています。現在は TPP・RCEPなどの自由貿易協定による市民生活への負の影響を明らかにし、是正するためのアクション・ロビイングを展開しています。



オーディオ・ヴィジュアル (AV) 作品の制作

世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供する教育教材を制作・販売しています。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。



PARCの会員になって活動を支えてください

PARCは市民のみならずと共に考え活動するNGOです。PARCの活動は、会員の方々の会費と各分野の活動への参加・協力によって支えられています。PARCの理念に賛同いただける方は、ぜひ会員になって一緒に活動していきませんか？

○PARC会員にはどんな人がいるの？

現在、PARC会員は約420人、皆さんの職業、地域、年齢、活動内容はさまざまです。PARCの趣旨にご賛同いただき、その活動に参加または応援して下さる人ならどなたでも会員になることができます。会員総会でPARCの基本的な活動方針を決めています。

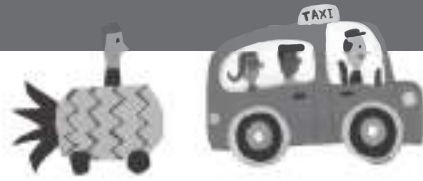
○PARC会員になると…

- PARC制作DVD・VHS (オーディオ・ヴィジュアル) を2割引で購入いただけます。 ●PARC自由学校の講座への単発受講が可能になります。
- 海外から届く資料の閲覧が無料となります。 ●PARC会員メーリングリストへの参加ができます。
- PARC関連イベントに会員割引価格で参加できます。 ●会員総会での議決権をもつことができます。

○年会費

一般会員 12,000円／夫婦・パートナー会員 18,000円／学生会員 8,000円／賛助会員 20,000円

○月々500円からのマンスリーサポーターも募集しています。詳しくはウェブサイトへ
→<http://www.parc-jp.org>



社会の学校 Society

クラスNo.		ページ
01	「移民社会」日本：私たちがつくる移民政策	8
02	ネット上の人権侵害を考えるーヘイトスピーチ・フェイクニュース・ネット炎上	10
03	ファシズムは「家族」の統制とともに	12

歴史の学校 History

クラスNo.		ページ
04	森口豁・ドキュメンタリーの世界ー沖縄そして〈ヤマト〉	16
05	いま何を語るべきかー関東大震災朝鮮人虐殺	18

世界の学校 World

クラスNo.		ページ
06	グローバル経済と民主主義の未来ールールを決めるのは誰か	20
07	国境をまたいで考える：日本と「朝鮮半島」	22

表現・暮らしの学校 Creative Activities and Ways of Life

クラスNo.		ページ
08	表現することは生きること	24
09	ピオダンサーいのちにふれること、からだで知ってゆくこと	26
10	女性のためのワークショップ からだと心の声を聴いてみよう	28

ことばの学校 Language

クラスNo.		ページ
11	武藤一羊の英文精読	30
12	ケイトリンの“What's Happening In The World!?”	31
13	世界のニュースから国際情勢を読み解こう	32

畑の学校 Farming

クラスNo.		ページ
14	畑で実践!! 〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培	33

特別講座・ツアー Special Courses, Tour

	ページ
時代・社会を問いつける者たち	36
ワンコイン・シネマ・トーク	38
アクションツアー沖縄 2019ー平和の祈りを沖縄から	40
あるがままの自分が認められる場所「やまなみ工房」を訪問する旅	42

PARC自由学校へようこそ!



PARC自由学校とは

^{パル}PARC自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場として1982年に開講しました。それ以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人びとの暮らしや社会運動を知るクラス、世界経済の実態や開発を考えるクラス、環境や暮らしのあり方を考えるクラスなど、毎年約30講座を提供してきました。私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。本当に豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、講師と共に学びあうのが自由学校です。

新たなビジョンを育み、その実現への一歩を踏み出すきっかけを、自由学校で探してみませんか。



ダンスには縁がなく、講座説明を読んでもわからず、でも気になり「ビオダンサ」を受講。楽しかった！クラスでは言葉を交わさないのに、回を重ねるごとに互いに信頼が生まれ育っていくと感じました。続けたい人が多く、自主クラスが結成されました。

かおるこさん 女性





農家兼教員をしている者です。「都市で食べる、都市を耕す」を受講し、自身の農業に対する考え方の裾野がかなり広がりました。講座終了後もつながっていける仲間ができるのも、自由学校の魅力ですね。

鴨志田さん 男性



最近まで保険や医療に関して知識がなさすぎることにややもやしていました。が、「医療崩壊」クラスを受講し、少し自分をほっとさせられる知識が得られた気がします。江戸川区のグループホーム訪問は、立ち上げた方たちの苦労と思いがお話や空間から感じられて印象深かったです。 平野さん 女性



～ G20サミット・大阪に向けて～

グローバル市民社会からの提起

G20 サミット（金融・世界経済に関する首脳会合）が 2019 年 6 月 28 日、29 日に大阪で開催されます。そもそも、G7 から G8 へと時代は変わり、そこに新興国の一部が加わった G20。ここは何かを決定する場ではなく、あくまで議論の場という位置づけですが、参加していない途上国や新興国、そしてそれらの国々を含む人びとの声はなかなか届きません。世界経済や金融をはじめ、保健医療や税、教育、農業など私たちの暮らしに関わる重要な課題が、このように一部の国々のトップだけで議論されるという状況に、市民社会はどのように向き合えばいいのでしょうか。またグローバルな課題を解決するためには、誰がどのようにルールや政策を決めるべきなのでしょうか。この連続講座では、国際市民社会や各国の運動の視点から、G20 の意味を改めて問い直し、世界と私たちのつながりを考えます。

主催：アジア太平洋資料センター（PARC） 協力：2019 G20サミット市民社会プラットフォーム

●日程・プログラム

第 1 回

誰が世界に貧困・格差を作りだしているのか!?

—— 1%の人の利益ではなく、みんなのためのルールを

途上国だけでなく、先進国においても貧困や格差は広がっています。経済のグローバル化がもたらした結果と言われますが、実際には誰がどのように政策やルールを決めてきたのでしょうか？ 途上国や各国の市民、貧困層の視点から、G20という場を根本的に問い直すと同時に、日本の政策そして社会運動のあり方を考えます。

●日時：2019年4月9日（火）19:00～21:00

●会場：PARC自由学校 2F

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル

JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口（徒歩6分）／東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」、東京メトロ丸ノ内線「淡路町駅」、都営地下鉄新宿線「小川町駅」各A5出口より徒歩2分

●参加費：500円（C20市民社会プラットフォーム参加団体・学生は無料）

スピーカー

松本 哉

（素人の乱5号店
店主）



稲場雅紀

（C20市民社会
プラットフォーム
共同事務局
ディレクター）



第 2 回

「デジタル経済」は社会問題解決の万能薬か？

—— AIと雇用、プライバシー保護、SDGsから考える

G20サミットでの最大のハイライトは「デジタル経済」の推進と言われています。安倍首相は2019年1月のダボス会議にて、「Society5.0があらゆる社会問題を解決する」とスピーチしましたが、果たしてそれは現実に起こりえるのでしょうか？ デジタル経済をめぐる議論は、分野や領域が広く、また技術的な側面も大きいため、市民がなかなか参画できません。しかしAIと雇用や、facebookの個人情報流出問題、ネット決済や「シェアリング・エコノミー」など、実は私たちの生活にも大きな影響を及ぼします。この回では、政府や企業が推進する「デジタル経済」に対し、市民社会からの批判と提言を行ないます。

●日時：2019年5月28日（火）19:00～20:50

●会場：連合会館 2F 201会議室

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口（徒歩5分）／東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」、東京メトロ丸ノ内線「淡路町駅」、都営地下鉄新宿線「小川町駅」各B3出口より徒歩0分

●参加費：500円

（C20市民社会プラットフォーム参加団体・学生は無料）

スピーカー

寺中 誠 内田聖子

（東京経済大学
客員教授） （PARC 共同代表）



川上資人

（弁護士／日本労働弁護団常
任幹事・同事務局次長／交通
の安全と労働を
考える市民会議／
東京共同法律事務所）



第 3 回

政治・経済を民主化する！

— グローバル市民社会ができること

●日時：2019年6月23日(日) 14:00~16:30

●会場：連合会館 2F 203会議室

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口(徒歩5分) / 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」、東京メトロ丸ノ内線「淡路町駅」、都営地下鉄新宿線「小川町駅」各B3出口より徒歩0分

スピーカー

※海外ゲスト(交渉中)も含めたスピーカーをお招きし、私たちが直面している世界と国内の様々な課題と、市民社会の役割について議論します。詳細はPARCウェブサイト(<http://www.parc-jp.org/index.html>)をご覧ください。

※本講座は一部公益社団法人庭野平和財団の助成を受けて開催します。

G20とは

G20サミット(金融・世界経済に関する首脳会合)は、国際経済において影響力の大きい一部の先進国や新興国の首脳、国際機関の代表などが参加して毎年開催される国際会議です。経済という枠組みをこえ、さまざまな地球規模課題について議論がなされます。

※G20サミットは、2019年6月28日(金)~29日(土)に、大阪で開催されます。

・G20大阪サミット 公式ウェブサイト <https://www.g20.org/jp/>

C20とは

C20は、G20に対して働きかけを行う市民社会(Civil Society)のプラットフォームです。2013年ロシアでのG20サミット時に公式に始まり、以来、政府と市民社会の対話を実現する場となっています。環境、保健、教育、ジェンダー、貿易など様々な分野で活動を行う市民社会組織(NPO、NGOなど)が、このプラットフォームに参画しています。PARCも参加団体となり、貿易・投資のワーキンググループの運営にかかわっています。

C20の主な活動

●G20への提言

以下の10のテーマで提言書を作成し、G20に向けて直接市民社会の声を届けます。

1. 反腐敗
2. 教育
3. 環境・気候・エネルギー
4. ジェンダー
5. 国際保健
6. インフラ
7. 国際財政構造
8. 労働・ビジネスと人権
9. 地域から世界へ
10. 貿易・投資

●C20サミットの開催

G20サミットに先駆け、C20サミットを開催します。このときに上記提言をG20議長に手渡す予定です。

※「C20サミット」は、2019年4月21日(日)~23日(火)に、東京都内で開催されます。

・2019 G20サミット市民社会プラットフォーム ウェブサイト <http://www.civil-20.jp/>

参加団体募集中！ 詳しくは http://www.civil-20.jp/#_8

©borisdenice



全国自由学校



自由学校は学びの草の根ネットワークです。札幌・名古屋・京都・岡山・福岡に、それぞれの地域に根差した個性的な自由学校が開講しています。また「自由学校」と名乗ることがなくても、地域で市民のための学びの場を提供する取り組みは全国に多数あります。そのいくつかをご紹介します。

■さっぽろ自由学校「遊」

札幌に拠点を置く「市民がつくる、市民の学びの場」です。2019年度前期には、「アイヌが描く、アイヌモシリの未来」、「日本を売らせない！～水道民営化をめぐる～」、「外国人技能実習生から考える人権問題」など、多彩な講座を開講予定です。1回毎の参加も可能ですので、札幌においでの際にはお気軽にお立ち寄りください。

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目
愛生館ビル5階501
TEL：011-252-6752 FAX：011-252-6751
E-mail：syu@sapporoyu.org
<http://sapporoyu.org/>
<https://www.facebook.com/sapporoyu>

■八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

「知る一つながる一学ぶ一動き出す 未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」のキャッチフレーズのもと、様々なテーマの講座やワークショップを開催しています。「豊かさってなんだろう?」「『フクシマ』を忘れない連続講座」「持続可能な地域を描くマップづくり」「いちから考える「けんぼう」のこと」「宮澤賢治の語り塾」…等々。市民有志の持ち寄り企画・運営する学習団体です。いつでも参加歓迎！お気軽にご連絡ください。

〒192-0082 八王子市東町3-4
アマダステーション気付
TEL：070-5567-0168 FAX：020-4624-2381
E-mail：manabi.tsunagu@gmail.com
<https://www.facebook.com/843kozapage/?ref=bookmarks>
<http://www.gakkou.org>

■あどぼの学校

京都、名古屋、岐阜のNPO/NGO関係者と協働し、あどぼの学校運営委員会を組織し、アドボカシーの担い手育成講座である「あどぼの学校」の実施、ならびに各地域のアドボカシー研究・分析を行っています。今後はアドボカシープラットフォームの設立、あどぼの学校のローカル版の実施・全国展開などに取り組んでいきます。

〒503-2124 岐阜県不破郡垂井町宮代1794番地の1
フェアトレードショップ&地産地消 みずのわ内
TEL：0584-23-3010 FAX：0584-84-8767
E-mail：info@sento-tarui.org
(特定非営利活動法人 泉京・垂井)
<https://www.facebook.com/advono/>
<http://adobono.strikingly.com/>



〈他にもある全国の自由学校〉

■なごや自由学校（現在休憩中）

〒488-0801 愛知県尾張旭市東大道町原田68
愛知聖ルカセンター気付
TEL：0561-53-8937 FAX：0561-52-7657
E-mail：alc.chubu@nsskk.org

■おかやま自由学校そら

TEL：080-3873-5626
E-mail：soranohajimari@gmail.com
Facebook：「おかやま自由学校そら」

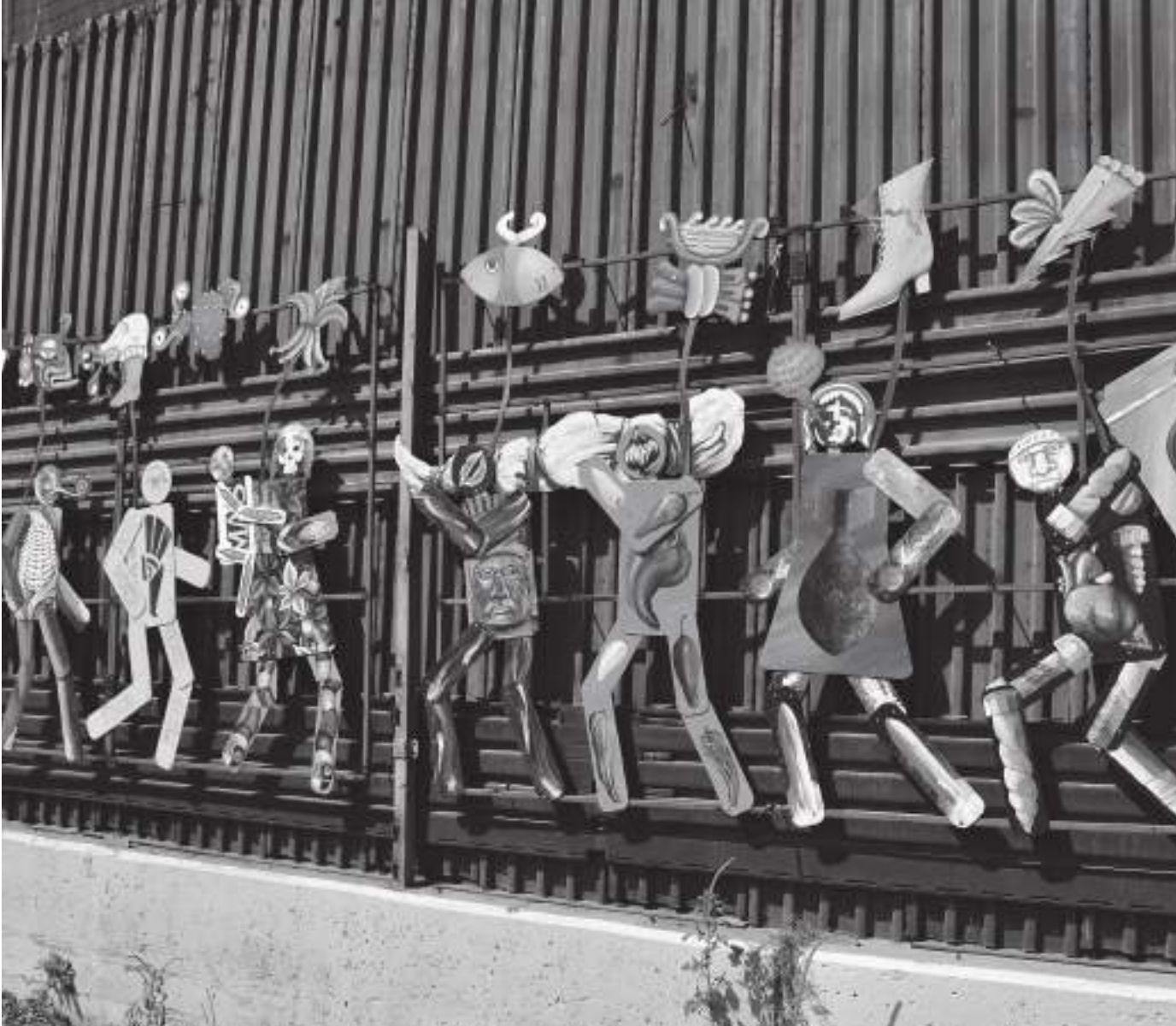
■京都自由学校

〒600-8127 京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅
湊町83-1 ひと・まち交流館 市民活動総合センター内 メー
ルボックス No.45
E-mail：office@kyoto-fs.org

■PP21 ふくおか自由学校

〒815-0037 福岡市南区玉川1-16 鍼灸院えんあん内
TEL：090-7157-1873
E-mail：ohyamayairochou@yahoo.co.jp
<http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/>





PARC 自由学校 2019 pacific asia resource center
freedom school

 Jonathan McIntosh

社会の学校

Society

- 01 「移民社会」日本：私たちがつくる移民政策
- 02 ネット上の人権侵害を考える
ーヘイトスピーチ・フェイクニュース・ネット炎上
- 03 ファシズムは「家族」の統制とともに

01

社会を知る
学校

- 2019年6月～10月
- 原則として金曜日
19:00～21:00
- 全8回 ●定員30名
- 受講料：26,000円

「移民社会」日本： 私たちがつくる移民政策

2018年6月、安倍首相は、骨太方針2018（経済財政運営と改革の基本方針2018）を閣議決定し、その目玉政策のひとつとして「移民政策とは異なるもの」とただし書きをしつつ、新たな外国人労働者受入れ方針を示しました。建設、農業、介護などの人手不足が深刻な分野を対象に、2019年4月より新たな就労資格を設け、外国人労働者の受け入れを拡大し、2025年までに50万人超の外国人の就業をめざしているといいます。バブルの人手不足をきっかけに「ニューカマー」の外国人労働者が来日して30年。日本に生活する外国籍者は263万人を超え、すでに「移民社会」になっている日本。移民社会日本の現実と社会の取り組みを振り返り、求められている包括的な移民政策について考えます。

6/7

政府の進める「外国人材」受け入れ拡大の正体 鳥井一平（NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク 代表理事）

安倍政権の骨太方針2018の目玉の一つとされる「外国人材」受け入れ。2018年臨時国会では改定入管法が成立し、4月から新たな受け入れ制度がスタート。ただ、すでに日本は260万人以上の外国籍移住者・労働者が暮らす「移民社会」です。こうした日本社会の現実から、政府の新たな受け入れ制度を検証します。



●参考ウェブサイト：移住連 <http://migrants.jp> *ただし、2019年4月にリニューアル変更予定

6/21

技能実習制度の実態と新たな外国人労働者（特定技能）受入れ

旗手 明（(公社)自由人権協会 理事）

新たな外国人労働者（特定技能）受入れが4月から始まりますが、大きく技能実習制度に依存しており、技能実習制度の実態を知ることがますます重要となります。



●主著：『外国人研修生 時給300円の労働者』（共著）明石書店2006、2009／「なぜ今、移民問題か」「別冊「環」20号」藤原書店2014 ●参考文献：『現代の理論（第18号）』（デジタル）2019年2月／「新たな「外国人材」の受入れに関する意見書」自由人権協会2018年11月（http://jclu.org/wp-content/uploads/2018/11/20181116ikensho_zenbun.pdf）

7/5

外国にルーツを持つ子どもたちの教育

小綿 剛（認定NPO法人多文化共生センター東京/元高校教員）

学校に急増している外国ルーツの子どもたち。今、子どもたちが直面している問題と、教育の場で何が求められているかについて、現場の視点から考えます。



●参考文献：『クラスメートは外国人』『外国につながる子どもたちの物語』編集委員会（編）明石書店2009

7/19

これからの日本人

～「不安」の時代とアイデンティティ～

三浦ノア（(一社)在日ウガンダ人の会 動員・人事課ディレクター）

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性を伴う「不安の時代」と言われる中で、日本は政策的・実情的に「移民国家」としての色を深めています。そこで暮らす「外国にルーツを持つ日本人」は「自分とは」という問いに必然的・日常的に直面します。その当事者の視点から、日本人がこれからどうあるべきかを提案します。



●参考ウェブサイト：『麦チョコ刻心記（NOAH MIURA'S BLOG）』（<https://mugichoco614699241.wordpress.com/>） ●参考文献：三浦ノア『こうして僕はジャフリカンになった。ウガンダでは「白」、日本では「茶色」と言われた肌』ハフポスト2018年10月24日掲載（https://www.huffingtonpost.jp/2018/10/24/jafrican-boy_a_23570191/）／ダン・ザハヴィ（中村拓也 訳）『自己と他者』晃洋書房2017



写真提供：移住連

9/6

どうなっているの？ 日本の難民制度 駒井知会（弁護士）

「難民」を巡る問題は、遠い海外だけで発生しているわけではありません。日本に安全を求めて避難してくる彼らが、どのような問題に直面しているのか、ぜひ、情報を共有し、御一緒に考える機会をいただけましたら幸いです。



●主著：『世界の難民をたすける30の方法』（共著）合同出版 2018
／『外国人の人権』（共著）明石書店 2012

9/20

ここにいるすでに社会の一部となっている 「外国人」

難民当事者の方

滞り歴11年の難民当事者の方をお招きし、ご自身が難民になった経緯、紛争地帯の恐怖、3年の長期収容など日本の難民対応についてのご経験やお考えをうかがいます。



写真提供：移住連

10/4

移民・外国人の受入れと統合：韓国とドイツの経験から考える

李 恵珍（(公財)日本国際交流センター シニア・プログラム・オフィサー）

韓国とドイツは人の国際移動、定住、統合にどう取り組んできたのか、どう対応しようとしているのか。その経験を材料に排除、社会的対立を生み出さないための視点を一緒に考えたいと思います。



●主著：「制度化しつつある韓国の移民政策と「選別/排除」の論理」『別冊「環」20号』藤原書店 2014 / "Challenges of and Coping with Immigration in Korea: The State, Civil Society, and Migrant Workers", Asia on the Move: Regional Migration and the Role of Civil Society, Japan Center for International Exchange, 2015 ●参考文献：「政策として移民とどう向かい合うか—韓国における現状と課題」、一般社団法人未来を創る財団ニュースレター No.16 (<http://www.theoutlook-foundation.org/admin/wp-content/uploads/2014/05/c5c7f5769959c46a2ad3523b8c0f58cf.pdf> よりダウンロード可) / 「ドイツの移民・難民政策の新たな挑戦」、(公財)日本国際交流センター 2017 (<http://www.jcie.or.jp/japan/publication/publication-402/> よりダウンロード可)

10/26(土) 14:00～17:00

まとめのワークショップ：私たちがつくる 移民政策

山岸素子（NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク 事務局長 / 立教大学 非常勤講師）

すでに多くの外国人が定住し、ともに暮らす日本で、私たちはどのような移民政策を描くのか？ 日本社会の外国人の多様な現実や現場での取り組みをふまえ、受講者が今後の日本に必要な移民政策を考え、つくる参加型のワークショップです。



●参考ウェブサイト：移住連 <http://migrants.jp> ●参考文献：ブックレット『移民社会を支える20の提案』（仮）（移住者と連帯する全国ネットワーク 2019年6月発行予定）

02

社会を知る
学校

- 2019年6月～11月
- 原則として火曜日
19:00～21:00
- 全8回 ●定員30名
- 受講料: 26,000円

ネット上の人権侵害を考える

—ヘイトスピーチ・フェイクニュース・ネット炎上

インターネットの普及からおおよそ25年、当初は主流メディアに対する「アンチ」であることに可能性を見出していたインターネットも、今やあらゆる人の生活に欠かせない基本的なインフラとなりました。そうした中で、ネット上のヘイトスピーチや差別、ネット炎上や個人に対する集中的な誹謗中傷、ネットデマやフェイクニュースなどの問題に対して、「ネットだから仕方ない」「嫌ならネットを見なければよい」で済ませることは、もはやできません。この講座ではこうした問題に最前線で取り組む講師陣を迎え、「ネットについての知識」と「人権についての知識」の両方をクロスさせながら、さまざまな世代の受講生のみなさんと一緒に、これからの取り組みについて考えていきます。

◎講座&コーディネーター

明戸隆浩 (東京大学情報学環 特任助教)

▶専門は社会学、社会思想、多文化社会論。共著に『奇妙なナショナリズムの時代』、共訳書にエリック・プライシュ『ヘイトスピーチ』など。情報サイト「レイシズムとヘイトスピーチについて考えるために (<http://antiracismresources.blogspot.jp>)」を公開中。



6/11

イントロダクション: ネット上の人権侵害を考える

ハン・トンヒョン (日本映画大学 准教授)

明戸隆浩 (東京大学 情報学環 特任助教)

2016年にヘイトスピーチ解消法が成立し、日本でも遅ればせにヘイトスピーチ対策が始まりましたが、ヘイトスピーチを含むさまざまなネット上の人権侵害に対する制度の整備は、いまだ十分とは言えません。ネットの現状及び今後必要な方向性について、対談形式で導入的な講義を行います。

●参考ウェブサイト: TBSラジオ「荻上チキ・Session-22」2018年5月31日放送分「特集「ヘイトスピーチ解消法施行から2年。ネットはヘイトにどう向き合うべきか」明戸隆浩×ハン・トンヒョン×津田大介×金尚均×川口泰司×荻上チキ」(<https://www.tbsradio.jp/257832>)



6/25

ソーシャルメディアのダークサイド

香山リカ (精神科医/立教大学現代心理学部 教授)

TwitterとFacebookが日本でのサービスを開始しておよそ10年。ソーシャルメディアが人びとのコミュニケーションに不可欠な形で入りこむ中で、その「ダークサイド」もさまざまな形で問題化しています。ネットにどっぷり漬かっている人も、苦手意識がある人も、今ふまえておくべき問題を提起します。

●主著:『ソーシャルメディアの何が気持ち悪いのか』朝日新書2014/『リベラルですが、何か?』イースト新書2016



©Blogtrepreneur





©Blogtrepreneur

7/9

ネット中傷被害者からの問題提起

スマイリーキクチ (タレント)



「昔のネットはよかった」—こうした言葉にうなづく人も、おそらくいるでしょう。しかし実際には、ネット上の人権侵害は最近始まった問題ではありません。ある日突然、いわれのない理由でネット上の匿名の人びとから大量の憎悪の言葉を投げつけられる。こうしたことは、残念ながらネットの初期からありました。当事者の貴重な声をふまえて、この問題の「原点」をあらためて確認します。

● 著者：『突然、僕は殺人犯にされた—ネット中傷被害を受けた10年間』竹書房 2011

9/24

ネット差別の実態をどう把握するか

高 史明 (心理学者 / 神奈川大学人間科学部 非常勤講師)



ネットにヘイトや差別があふれていることは意識してネットを見ればすぐにわかることですが、それをどう「客観的」に示すのかは、意外と難しい問題です。第一線の研究者から、実態把握の方法を学びます。

● 著者：『ネット上の部落差別と今後の課題—「部落差別解消推進法」をふまえて』(共著) 部落解放・人権研究所 2018 / 『リビズムを解剖する—在日コリアンへの偏見とインターネット』勁草書房 2015

7/19

ネット右翼はどこから来たのか

伊藤昌亮 (成蹊大学文学部 教授)



もはやすっかり定着した言葉である「ネット右翼」、あるいは「ネトウヨ」。少しでも踏み込んでネットを使う人ならほぼ必ず遭遇するこうした人びとは、どこからどのように現れたのか。「ネット上の人権侵害」に対峙するためにこそ必要なこうした問いについて、包括的な検討を行います。

● 著者：『奇妙なナショナリズムの時代—排外主義に抗して』(共著) 山崎望編、岩波書店 2015 / 『デモのメディア論—社会運動社会のゆくえ』筑摩書房 2012

10/8

ネット上の人権侵害と法

唐澤貴洋 (弁護士)



人権侵害に対して法的対応が要請されるのは、本来、現実であれネット上であれ同じはず。しかし実際には、ネット上の人権侵害に対する法的対応は長い間軽視されてきており、法整備は今なお不十分です。自身も被害当事者である法律の専門家から、今法律に望まれている役割を学びます。

● 著者：『炎上弁護士—なぜ僕が100万回の殺害予告を受けることになったのか』日本実業出版社 2018 / 『炎上弁護士、「死ぬ」と言ってきた少年たちに会いに行く』現代ビジネス 2017年12月20日掲載 (<https://gendaiismedia.jp/articles/-/53595>)

9/10

ネットデマと闘う

旗智広太 (BuzzFeed Japan 記者)



ネットにフェイクニュースが横行する中、それに対抗するメディアがない？ いいえ、そんなことはありません。ネットメディア「バズフィード」は、今、ネット上のデマや差別に迅速に対応することで注目されています。今後、こうした試みを増やすにはどうすればいいのか、具体的な記事をもとに考えます。

● 参考ウェブサイト：三田評論 ONLINE 2018年6月26日掲載「【特集】変わるメディアとジャーナリズム」座談会：ニュースの今、そして、これから」八田亮×萩上チキ×津田正太郎×旗智広太×山腰修三 (<https://www.mita-hyoron.keio.ac.jp/features/2018/06-1.html>)

11/5

ネット社会のリテラシー

佐藤佳弘 (株)情報文化総合研究所 代表取締役 / 武蔵野大学 名誉教授)



「ネット」と「人権」をクロスさせて考えること。これは現代社会の喫緊の課題であると同時に、これからのサイバースペースにおいて「よき市民」であるために必要な、ネット社会のリテラシーでもあります。それは具体的にどのようなものなのか、そこで重要となるポイントを整理します。

● 著者：『インターネットと人権侵害 (匿名の誹謗中傷 ~その現状と対策)』武蔵野大学出版会 2016 / 『情報化社会の歩き方—危険回避のガイドブック』ミネルヴァ書房 2010

03

社会を知る
学校

ファシズムは「家族」の 統制とともに

9条改憲と共に、右派が「改憲の1丁目一番地」として主張しているのが、憲法24条改憲です。その思惑の中心にあるのは「家族」への介入と「女性」の統制です。再軍備には、兵隊を産み育てる「家族」の統制と支配服従関係への“慣れ”、“子供の命を守りたい”と思う母性の否定が必須だからです。戦前から連綿と受け継がれる「家族と女性の統制」という執念をさまざまな角度・時間軸から見つめ、ファシズムの萌芽について考えます。

●2019年6月～10月

●金曜日

19:00～21:00

●全7回 ●定員30名

●受講料：26,000円

6/14

右派を追い詰める「家族崩壊」

早川タダノリ（編集者）

右派は日本国憲法と戦後教育が「家族」を崩壊させてきたとして「危機感」を持っているようです。彼・彼女らを追い詰めるものはいったい何なのでしょう？

●主著：『まほろしの「日本的家族」』（編著）青弓社 2018／『「愛国」の技法—神国日本の愛のかたち』青弓社 2014



9/27

反戦非暴力

—憲法24条と9条は無二のペア！

水谷陽子（弁護士／明日の自由を守る若手弁護士の会）

実は9条と共に古くから改憲ターゲットである24条。なぜ再軍備に24条改憲が必要？それは、軍事国家には「兵隊を生み出す家」「戦争する心を育む家」が必須だから。家制度を廃止に追い込んだ24条が持つ、「非暴力」「男子支配の否定」という核心と平和主義の関係に迫ります。

●共編著：同性婚人権救済弁護団 編『同性婚—だれもが自由に結婚する権利』明石書店 2018／あすわか（明日の自由を守る若手弁護士の会）、前川喜平（編著）『イマドキ家族のリアルと未来—憲法カフェへようこそ3 憲法9条の陰でねらわれる24条』



6/28

聖人化する母

堀越英美（ライター／翻訳家）

とどまることを知らない母性と自己犠牲の精神。そんな幻想的「母」はどのように生み出されたのか？

●主著：『不道德お母さん講座—私たちはなぜ母性と自己犠牲に感動するのか』河出書房新社 2018／『女の子は本当にピンクが好きなのか』ele-king books 2016



10/18

「夫婦別姓は伝統的家族を壊す」？

二宮周平（立命館大学法学部 教授）

選択的夫婦別姓は「伝統的家族観を破壊する」——。保守の反対でいまだに法制化されない夫婦別姓。第1次訴訟の最高裁判決を振り返りつつ、なぜ右派がそこまで別姓という選択肢を許さないのか、探ります。

●主著：『家族と法—個人化と多様化の中で』岩波新書 2007／『新版・戸籍と人権』解放出版社 2006



7/12

農家女性の戦後史からみる「日本型福祉理念」との闘い

姉齒 暁（駒澤大学経済学部 教授）

農家の女性たちが新憲法のもとで夢見た未来を阻んできたものはなんだったのか？女性たちはそれとどのように向き合ってきたのか、農家女性の経験を通して「今、起こっていること」を考えます。

●主著：『農家女性の戦後史』こぶし書房 2018／『豊かさという幻想「消費社会」批判』桜井書店 2013



10/25

24条のまなざしを再検証

—自立と連帯の要

講師交渉中

「家族統制」のために改憲が狙われる憲法24条。その24条の人権体系上の位置づけを再確認すると、自由権と社会権を連結させる「自立と連帯の要」であることが見えてきます。「男性支配の否定」という核心から放たれる、抑圧された人々の尊厳を守れという国家への強いメッセージ。24条が置かれた位置の意味を、かみしめてみましょう。

7/26

新自由主義、家族と「日本型福祉理念」

伊藤公雄（京都産業大学現代社会学部 教授）

40年前の大平内閣時代にすでに提唱されていた「日本型福祉社会」。自民党が女性の社会進出は「人生の安全保障」を「弱体化させる」とまで言い切ったこの時代から脈々と続いている家族への統制を振り返ります。

●共編著：『国家がなぜ家族に干渉するのか—法案・政策の背後にあるもの』青弓社 2017／『ジェンダーで学ぶ社会学【全訂新版】』世界思想社 2015



PARCの市民研究会!

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC) では、国内外で起きている社会問題について市民一人ひとりが調査し、学んでいくための市民調査を率いてきました。100円ショップで販売されているモノがどこから来ているのか? 驚異的な安さで日本の食卓に乗るようになったバナナはどんな人がどのように育てているのか? などといった市民目線の調査を通して、凶悪な労働環境や破壊的なプランテーションの実態を明らかにしてきました。

限られた専門家やメディアに真実を依拠するのではなく、一人ひとりが世界の真実を学ぶための市民調査にアナタも参加してみませんか? 専門家である必要はまったくありません。「知りたい」という好奇心、少し難しい本でも読んでみる根気、現場に足を運ぶ行動力。そのいずれかでもあれば大歓迎。まずは、現在行われている研究会から参加してみてください。

ニューエコノミクス研究会 (ニューエコ研)

この研究会は、1970年代頃から世界の市民社会で取り組まれている、オルタナティブな経済理論と実践 (通称、ニュー・エコノミクス) を学んでいきます。循環型経済の研究調査、途上国債務問題の研究調査、新しい豊かさ指標の作成、オルタナティブ・テクノロジー、エコロジー運動、地域主義/ローカリゼーション、身の丈の経済、循環型経済、補完通貨、幸せの経済学、社会的企業、連帯経済、ポスト開発・脱成長など、オルタナティブな経済を実現するための取り組みは多数あるものの、その調査研究と言えば、これらのどれか一つに的を絞って行なうことが一般的でした。しかし現実には、一つの理論を学んでそれを応用すれば社会は変わるというものではありません。むしろそれぞれの理論や実践の間にある「接点」や「共通課題」を探っていくことが、これからはより必要とされています。

そこで、この研究会では、3ヶ月に一回のペースで、ニュー・エコノミクスに関わるトピックに関して、幅広く講演会、読書会などを行ないます。

◎コーディネーター: **中野佳裕** (明治学院大学国際平和研究所 研究員 / PARC 自由学校 講師)

資源採掘問題研究会 (ホリ研)

携帯、スマホ、パソコン、テレビ…。私たちの身近なところには電子機器があふれていますが、それら一つひとつの中にたくさんの鉱物資源が使われています。それはどこから来ているのでしょうか? 調査をしてみると、鉱山現場は現代においても危険な労働環境、汚職、環境破壊を伴いがちな産業であることがわかってきました。

そこで、「ホリ研」では日本のNGOらによるネットワーク「エシカルケータイキャンペーン実行委員会」とも協力し、二つのアプローチから調査をしています。私たちの手元の鉱物資源のルーツをたどり、それがどこで得られたものなのかを川下からたどる調査が一つ。それによって、日本企業の調達方針を紐解いていきます。もう一つは、問題が指摘されている世界中の鉱山から鉱物が日本にやってきていないか、川上からたどる調査です。

本研究会では1~2ヶ月に一回のペースで採掘現場で起きている問題の調査発表、あるいは日本のメーカー・商社の動向に関する調査発表を行います。

◎エシカルケータイキャンペーンウェブサイト: <http://www.ethical-keitai.net/>

お金の流れをもっとフェアに!! — Fair Finance Guideの取り組み

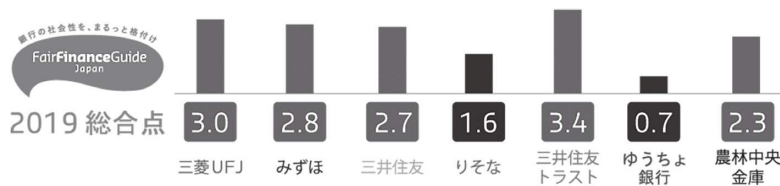
私たちが銀行に預けているお金、保険金として積み立てているお金はさまざまな企業・事業に投資されて世界を巡っています。

例えば、三菱UFJ銀行からは2012年から2016年の間に約500億円の融資が遺伝子組み換え企業として悪名高いモンサントに対して行われました。他にも、国際条約で禁止されているクラスター爆弾や核兵器には国内の大手金融機関4行(三菱UFJ、みずほ、三井住友、三井住友トラスト)から約1.4兆円も融資されていることが明らかになりました。

いったい私たちのお金は何に使われているのか? 銀行と保険会社の身勝手な運用に歯止めをかけることはできるのか?

各金融機関の格付け活動と併せて調査・研究をしています。

◎詳しくはFair Finance Guideウェブサイトへ: <https://fairfinance.jp/>



バナナ研究会—エシカルバナナ・キャンペーン

「いつか身体が壊れるまで働き続けなきゃならない」

「どれだけ一生懸命働いても、子どもたちに何もしてやれない」

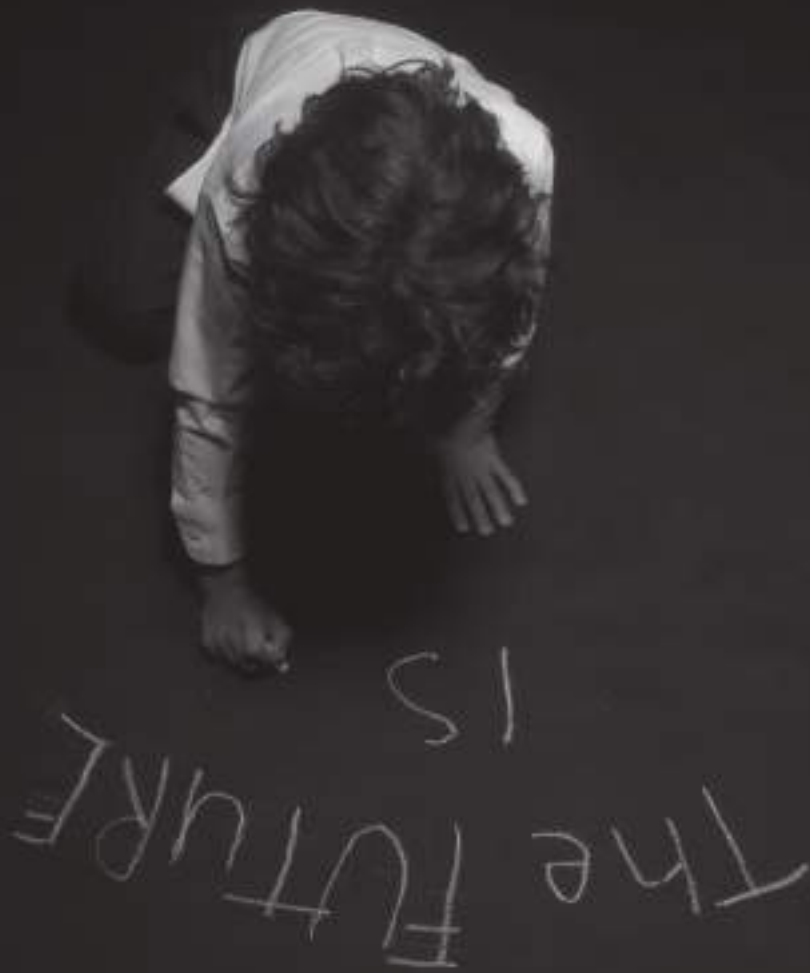
PARCの創設初期から調査活動をしてきた鶴見良行氏がその著書『バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ』岩波新書(1982)にてバナナ農園で働く人びとの苦難を明らかにしてから35年以上が経過していますが、今でも現地から聞こえてくる声は上記のような悲痛な声です。

いま、現場では何が起きているのか? 労働者らの状況はどうしたら改善できるのか? 日本の流通・投資・ビジネスのあり方をどのように変えなければならないのか? 現地の状況と日本の経済・社会構造双方に目を向けて解決を探る研究会です。


特定非営利活動法人APLA、(株)オルター・トレード・ジャパンらとともに「エシカルバナナ・キャンペーン」として問題の調査・普及啓発・政策提言にかかわっています。

◎詳しくはエシカルバナナ・キャンペーンのウェブサイトへ: <https://www.e-banana.info/>





PARC 自由学校 2019 pacific asia resource center
freedom school

 Yana Lyandres

歴史の学校

History

- 04 森口豁・ドキュメンタリーの世界—沖縄そして〈ヤマト〉
- 05 いま何を語るべきか—関東大震災朝鮮人虐殺

世界の学校

World

- 06 グローバル経済と民主主義の未来—ルールを決めるのは誰か
- 07 国境をまたいで考える：日本と「朝鮮半島」

04

歴史の
学校

森口 豁・ ドキュメンタリーの世界

沖縄そして〈ヤマト〉

●2019年6月～10月

●原則として水曜日

19:00～21:00

●全8回 ●定員30名

●受講料：32,000円

米軍支配下から本土復帰後まで、沖縄の人びとの苦悩をテレビドキュメンタリーの世界で描き続けた森口豁さん。PARC 自由学校では、「森口豁・沖縄を見つめる映像の世界」の講座を2年にわたって行い、好評をいただきました。森口さんは、沖縄以外のテーマにおいても、署名性の高い優れたドキュメンタリーを作り続けました。戦争の傷跡、教育の右傾化、原発、米軍による深刻な被害、国家的なイベントの裏側、そして日本国憲法など…沖縄と〈ヤマト〉を行き来する視点によって切り取られたその貴重な記録群からは、今日までつながる私たちの社会の課題が見えてきます。今回も毎回の案内人はジャーナリスト・永田浩三さんが務めます。

※上映作品は変更となる場合がございます。また、過去講座の上映作が一部含まれます。

◎講師＆コーディネーター

森口 豁 (ジャーナリスト)



「沖縄」は日本を映す鏡一。これは半世紀余り沖縄と向き合ってきた私の結論です。沖縄の島々の軒下から見えてきたのは、この国の底知れぬ闇の深さでした。無自覚なヤマトと、そんなヤマトに苛立ち続ける沖縄を往還しながら、私がまなざしたものは？

●主著：『だれも沖縄を知らない・27の島の物語』筑摩書房 2005 / 『子乞い 沖縄孤島の歳月』凱風社 2000

▶1937年東京生まれ。59年、玉川大学を中退し米軍政下の沖縄に移住。琉球新報記者や日本テレビ「特派員」として活躍。東京転勤後も沖縄に通い続け、ドキュメンタリー番組28本を製作。『ひめゆり戦史・いま問う国家と教育』などで第17回テレビ大賞優秀個人賞などを受賞。過疎と抗う鳩間島のルポ『子乞い・沖縄孤島の歳月』は連続テレビドラマ『瑠璃の島』にもなった。「沖縄を語る一人の会」代表。

永田浩三 (武蔵大学 教授/ジャーナリスト)



森口さんのまなざしは、いつも、時代の中で翻弄される人、声を上げられない人たちに注がれてきました。本土を舞台にした作品も含めて、日本社会は何を破壊し捨ててきたのかを見つめ、改めて沖縄を考えます。

●主著『ヒロシマを伝える 詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 / 『奄美の奇跡』WAVE出版 2015

▶1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。「表現の不自由展」共同代表。映画『60万回のトライ』共同プロデューサー。



秋山ちえ子さんと石垣島取材 1960年前後

6/26

『あの道を歩まぬために・ある戦中派教師の国家』(1981年)

『戦世の語り部先生 沖縄教研集会から』(1978年)

卒業式の「君が代斉唱」のとき、教え子たちに「回れ右」の号令をかけた公立高の老教師。なぜ？ そのとき生徒たちは？ 忍び寄る右傾化の影に教育現場は…。ほか1本。



国会議事堂前で

7/10

『戦争を考える・出陣学徒 生と死の証言』

(1980年)

『戦争をみつめる・ホアンさんの海ゆかば』

(1979年)

兵力不足を補うために昭和18年10月に始まった学徒出陣。二十歳前後の若者たち約13万人が学窓を離れ、戦地へ送られた。神風特攻作戦で命を落したり、異国のジャングルで餓死した者、生きて還りながら「戦犯」として死刑になった者…。彼らの生と死を通して戦争を考える。ほか1本。

8/7

『軍拡の時代に・ファントムと母子像』(1983年)

『軍拡の時代に・森の中から軍靴の響きが聞こえる』(1984年)

娘と幼い孫二人を米軍機墜落事故で失った横浜・緑区の土志田勇さんは、悲劇の再発なきことを願って「母子像」建立を思い立つ。「娘にもう一度我が子を抱きしめさせてあげたい」「場所は人目の多い横浜の「港の見える丘公園」がよい…。だが、思いもよらない障害が父の前に立ちはだかった。ほか1本。



琉球新報時代 1960年 摩文仁界隈で

9/4

『俺の鉄工所と安保』(1980年)

『生き埋めの冬 24年目のスモン患者』(1978年)

1964年、厚木基地に隣接する鉄工所に米軍機が墜落。工場主の館野さんは子ども3人と従業員2人を失った。さらに国は館野さんの土地を危険区域に指定し、奪った。森口は館野さんのたった一人の闘いに密着した。ほか1本。

9/18

『東京に原発がやって来る!？』(1981年)

『踊らにゃ損ソン万博音頭・つくば博周辺事情』(1985年)

東京・杉並の市民グループが原発の「東京誘致」を呼びかける街頭署名運動を始めた。「大都会のど真ん中に危険な原発を！」戸惑い、驚く街の人たち。署名簿を挟んで繰り広げられるグループのメンバーと街の中の普通の市民が繰り広げる「本気の議論」から見えてきたものは…。ほか1本。



日本テレビ沖縄特派員時代 1960年代半ば頃 嘉手納基地で

10/2

『いまこそ訴える・私の日本国憲法考』(1981年)

『激突死』(1978年)

5人の識者が、憲法記念日に因み、国家の最高機関の門の前でそれぞれの「我が思い」を訴える。鎌田慧さんは防衛庁前で、清水英夫氏は最高裁門前で、中山千夏さんは首相官邸前で、そして岡本愛彦さんは米大使館前で…。彼らの「直訴」はこの国政の歪みを浮かび上がらせる。ほか1本。

10/16

『沖縄の十八歳』(1966年)

『熱い長い青春・ある沖縄の証言から』(1972年)

コザ高校3年の内間安男は、沖縄玉砕を記念して行われる慰霊と平和の行進に参加した。級友からは、復帰を喜ぶだけでなく疑問視する声があがっていた。そんななか山口衆議院議長が沖縄にやって来る。内間は沖縄の若者の苦悩を綴った直訴状を山口に手渡す。森口は直訴状のシーンで完全に実音をカットするという演出を選んだ。それはなぜだったのか。ほか1本。

10/19(土) 14~17時

『沖縄戦の図～佐喜真美術館への誘い～』

(1998年)

『一幕一場・沖縄人類館』(1978年)

『戦世の六月・「沖縄の十八歳」は今』(1983年)

「原爆の図」で知られる丸木俊と丸木位里が描いた「沖縄戦の図」は、普天間基地に近接する佐喜真美術館のなかでひととき存在感を示している。この絵はどのような動機で生まれ、どのような過程を経て完成したのか。ほか2本。

05

歴史の
学校

いま何を語るべきか

— 関東大震災朝鮮人虐殺

- 2019年6月～10月
- 月曜日
- 19:00～21:00
- あるいは土曜日午後
- 全8回 ● 定員30名
- 受講料: 28,000円

1923年の関東大震災のとき多くの朝鮮人が虐殺されました。小池百合子東京都知事は、「死者の数があいまいではないか」という論争などを受けて、追悼文を送ることを2年続けて見合わせました。惨事は本当に不透明なものなのでしょうか。さまざまな人の努力によって、詳細な経緯や真相がいま明らかになりつつあります。大量殺害の背景には、流言飛語に促されたのではなく、軍や警察の命令に従わざるを得ない事情や、自警団内の階層の問題が横たわっています。追悼にあたっては、地域住民の複雑な事情や朝鮮半島出身の人びととの連携と知られざる物語がありました。最新の知見をもとに、96年前の悲劇と、それに向き合う日本社会の課題について考えていきます。3回は現場でのフィールドワークを行います。

◎講師&コーディネーター

永田浩三 (武蔵大学 教授/ジャーナリスト)



▶1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クロウズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。「表現の不自由展」共同代表。映画『60万回のトライ』共同プロデューサー。

● 主著『ヒロシマを伝える 詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 / 『奄美の奇跡』WAVE出版 2015

7/13(土) 午後

東京都世田谷区を訪ねる

椎の木の「記念樹」とどう向き合うか

丸浜 昭 (獨協大学・明治大学 非常勤講師/歴史教育者協議会 副委員長)



世田谷区の震災体験記集にはデマや「朝鮮人騒ぎ」が怖かったと多数載る。烏山では虐殺事件が起こされ「記念樹」の椎が残る。何の「記念」で、今、それとどう向き合うか。

● 主著: 「生徒と調べた関東大震災時の烏山における朝鮮人虐殺事件」『東京の歴史教育』14号 1984 / 「自治体史のなかの朝鮮人被害事件—東京を事例として」『歴史評論』521号 1993 ● 参考文献: 加藤直樹『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』ころから 2014 / 西崎雅夫編『関東大震災朝鮮人虐殺の記録—東京地区別1100の証言』現代書館 2016

6/17(月) 19:00～21:00

いまわかりつつあること

西崎雅夫 (一社) ほうせんか 理事) × 永田浩三

関東大震災時の朝鮮人・中国人虐殺事件は、ずっと日本政府が隠蔽してきた結果、いまだにわからないことが多い。「何が起きたのか」を知るには体験・目撃証言が欠かせない。



● 編著: 『関東大震災朝鮮人虐殺の記録—東京地区別1100の証言』現代書館 2016 / 『証言集 関東大震災の直後 朝鮮人と日本人』ちくま文庫 2018 ● 参考文献: 山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺—その国家責任と民衆責任』創史社 2003 / 加藤直樹『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』ころから 2014

6/29(土) 14:00～16:00

虐殺絵を読み解く

新井勝紘 (高麗博物館 館長)



自分が描くしかないという衝動に衝き動かされて、若い画家たちが残してくれた貴重な虐殺絵と、震災を体験した児童が一番恐ろしかったことを描いた絵から何が見えてくるか。

● 主著: 『五日市憲法』岩波新書 2018 / 『日本の時代史 22巻 自由民権と近代社会』(編著) 吉川弘文館 2004 ● 参考文献: 『描かれた朝鮮人虐殺と社会的弱者』高麗博物館図録 2018 / 『関東大震災80周年記念行事実行委員会編『世界史としての関東大震災』日本経済評論社 2004



烏山神社 (東京都世田谷区)

7/27(土) 午後

千葉県八千代市を訪ねる

遺骨の発掘と追悼・慰霊の取り組み

平形千恵子 (千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会)

朝鮮人を「保護」したはずの陸軍習志野収容所で、何がおこなわれていたか。選別し、連れだし殺し、更に住民に渡し殺させていた。観音寺では、慰霊碑と韓国式鐘楼の前で慰霊祭が続いている。



●主著：『いわれなく殺された人びと—関東大震災と朝鮮人』(共著) 青木書店 1983 / 『千葉の「関東大震災と朝鮮人虐殺事件」を歩く』(共著) 千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会 2013 (2018改訂) ●参考文献：関東大震災80周年記念行事実行委員会編『世界史としての関東大震災』日本経済評論社 2004 / 田中正敬・専修大学関東大震災研究会編『地域に学ぶ関東大震災』日本経済評論社 2012

9/9(月) 19:00~21:00

追悼碑が語るもの

金 哲秀 (朝鮮大学校朝鮮問題研究センター 副センター長)

追悼碑には建立された当時の事情と、建立者の様々な思いが込められている。追悼碑建立の経緯と碑文分析を通じて、そこから見えてくる日本人の思想状況について考えてみたい。



●参考文献：山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後虐殺の国家責任と民衆責任』創史社 2011 / 『資料集 朝鮮人犠牲者追悼碑—歴史の真実を深く記憶に』朝鮮人強制連行真相調査団 2018

9/28(土) 午後

千葉県野田市を訪ねる

福田村事件・差別意識がもたらすもの

辻野弥生 (流山市立博物館友の会企画編集委員 / 「ずいひつ流星」主宰)

四国から遠く離れた利根川のほとり(現野田市)で、妊婦を含む香川県出身の行商団9人はなぜ殺されたのか。私たち一人ひとりのなかに潜む差別の根っこについて考えたいと思います。



●主著：『福田村事件 関東大震災 知られざる悲劇』崙書房出版 2013 / 『呉服屋のお康ちゃん奮戦一代記』新人物往来社 1997 ●参考文献：辛淑玉・野中広務『差別と日本人』角川新書 2009 / 千葉県における追悼・調査実行委員会編『いわれなく殺された人びと—関東大震災と朝鮮人』青木書店 1983

10/7(月) 19:00~21:00

民衆が加害者になった理由

藤野裕子 (東京女子大学 准教授)

朝鮮人虐殺は、関東大震災時だけでなく、より日常的に、労働現場などでも起きていました。それらの実態をふまえ、日本民衆の加害の論理を考えてみたいと思います。



●主著：『都市と暴動の民衆史—東京・1905-1923年』有志舎 2015 / 『震災・核災害の時代と歴史学』(共著) 青木書店 2012 ●参考文献：山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後—虐殺の国家責任と民衆責任』創史社 2011 / 藤野裕子「裁判記録にみる一九三二年矢作事件」『公正から問う近代日本史』吉田書店 2019

10/21(月) 19:00~21:00

いま歴史的に残された課題はなんだろう

田中正敬 (専修大学文学部 教授) × 永田浩三

小池都知事が関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典に追悼辞を出さないと表明するなど、昨今は虐殺を否定する動きが顕著です。講座ではその特徴と背景について考えます。



●主著：『地域に学ぶ関東大震災』(共著) 日本経済評論社 2012 / 『学校に思想・良心の自由を一君が代不起立、運動・歴史・思想』(共著) 影書房 2016 ●参考文献：田中正敬「小池都知事の追悼辞送付取りやめとは何か—関東大震災朝鮮人虐殺をめぐって」『歴史学研究』第968号 2018



震災直後の神田・万世橋駅付近

06

世界の
学校

グローバル経済と民主主義の未来

——ルールを決めるのは誰か

1980年代以降、新自由主義に基づく規制緩和、自由貿易が広がった結果、グローバル企業の力が拡大する一方で、貧困や格差など多くの負の影響が世界各国で起こっています。同時に極右的な政治勢力の台頭や、トランプ大統領による「米中貿易戦争」など、世界経済の未来はますます見通せなくなっています。しかし新自由主義へ対抗する民衆の運動は新たな地平を切りひらきつつあります。米国では民主的社会主義が若い世代の支持を高め、イギリスではコービン労働党の福祉国家政策が熱烈な支持を得ています。世界に貧困と格差を生み出し、民主主義をも後退させてきた新自由主義に対する運動と実践の原動力はどこにあり、誰が担っているのでしょうか？ また周回遅れの民営化や自由貿易の推進など、世界の動きから完全に外れているように見える日本の問題は何かのでしょうか？ 暮らしや民主主義という価値を世界の人のびとと共有し、どのように連動していけるのかを考えます。

- 2019年6月～11月
- 原則として隔週火曜日
19:00～21:00
- 全9回 ● 定員30名
- 受講料：30,000円

6/4

私たちはどこに立っているのか

——新自由主義の臨界点で

中山智香子 (東京外国語大学総合国際学研究院 教授)

自由主義の国際的政治経済制度は、20世紀の重要な枠組であった。世界大戦の反省から、理念としても受け入れられた。しかしそこには矛盾や強制力が含まれ、これが次第に露わになった。この経緯を概観し構造をつかむ。



● 主著：『経済戦争の理論—大戦間期ウィーンとゲーム理論』勁草書房 2010 / 『経済ジェノサイド：フリードマンと世界経済の半世紀』平凡社新書 2013 ● 参考文献：木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書 2014



©Patrice_CALATAYU

7/2

米国政治を変革しつつある若い「社会主義者」たち

宮前ゆかり (リサーチャー／翻訳家)

経済、労働、医療、環境の問題に取り組む世界的な市民運動の連帯が急速に広がっています。日本の皆さんは市民運動についてどのような展望をお持ちですか？ 民主制度を支える強い底辺を持つ市民運動には何が必要だと思いますか？ 「階級闘争」という視点から今の日本の政治を考えたことはありますか？ 一緒に考えてみませんか？



● 主著・訳書：グレッグ・ミッチェル『ウィキリークスの時代』(訳書) 岩波書店 2011 / 『民主党を変革しつつある社会主義者たち—グラスルーツの運動はアメリカを変えるか』『世界』2018年12月号 岩波書店

I 新自由主義への抵抗：世界の潮流を知る

6/18

欧州債務危機と緊縮政策

——フランスのイエロー・ベスト運動は何に怒っているのか

菊池恵介 (同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教員)

昨年の11月以来、イエロー・ベスト運動がフランスを揺るがしている。その担い手は大都市の周辺部や地方の底辺層だ。政治に絶望し、組合との絆も薄い彼らは何に怒っているのか。底辺から登場したこの新たな民衆運動の背景を考える。



● 主著：『近代世界システムと新自由主義グローバリズム—資本主義は持続可能か？』(共編著) 作品社 2014 ● 参考文献：菊池恵介『欧州債務危機と緊縮の《鉄の檻》—ギリシャの反緊縮運動からイギリスのEU離脱へ』『季刊 ビーブルズ・プラン』No.74 ビーブルズ・プラン研究所 2016 / 菊池恵介『「ポピュリズム台頭」の元凶は白人貧困層か？—フランス大統領選にみるポピュリズム論の誤譯』『RONDO』No.1 同志社大学グローバル・スタディーズ学会 2017

7/16

公共サービス再公営化と民主的な公的所有の形

——コービン英労働党を支える市民層

岸本聡子 (トランスナショナル研究所(TNI)パブリックオルタナティブプログラムコーディネーター)

EU離脱問題で分断される英国。しかしコービン率いる労働党の「多数のために、少数ではなく」はぶれることなく政策議論は深化。それを支えるのは、普通の人々が住宅、医療、教育を享受できる社会を目指す市民や学者たち。



● 主著：『再公営化という選択—世界の民営化の失敗から学ぶ』(共編著) トランスナショナル研究所 2019 https://www.tni.org/en/RPS_JP ● 参考文献：岸本聡子『安易な民営化のつけはどこに—先進国に広がる再公営化の動き』(共著) イマジン出版 2018 / 岸本聡子『いま、イギリス労働党がすごい。入門から一気にコアな議論にご案内』<https://note.mu/satokokishimoto/n/n456df9f193c7>

「南」から見た新自由主義の30年 ——改革の希望と現実に揺らぐ中南米諸国

狐崎知己 (専修大学経済学部 教授)

左右両極に政治の振り子が大きく揺れ動く中南米。絶え間ない政治経済危機のなかで、日常性から豊かさを問い直し、尊厳を回復する人びとの営みを紹介します。



● 主著：『グアテマラ内戦後 人間の安全保障の挑戦 (みんなく実践人類学シリーズ)』(共編著) 明石書店 2009 / 『平和・人権・NGO—すべての人が安心して生きるために』(共編著) 新評論 2004 / 『国際開発の地域比較—アジア・アフリカ・ラテンアメリカの経験』(共著) 中央経済社 2000

9/17

「米中貿易戦争」の本質とは？ ——デジタル経済の覇権争いと日本の立ち位置

朱 建榮 (東洋学園大学 教授)

米中貿易摩擦自体は「冰山の一角」に過ぎず、水面下では中国の全面的台頭に対する現存の大国による抑え込み、すなわち典型的な「ツキディデスの罠」です。米中間の覇権争いの現状と行方を説明し、その上で日本は中長期的に見てどのように対策を考えるべきか、ヨーロッパ、韓国などの対応を紹介しながら共に考えていきたいと思います。



● 主著・訳書：『中国外交 苦難と超克の100年』PHP研究所 2012 / 吳士存『中国と南沙諸島紛争—問題の起源、経緯と仲裁裁定』後の展望 (訳書) 花伝社 2017 ● 参考文献：朱建榮『世界のパワーシフトとアジア—新しい選択が迫られる日本外交』(編著) 花伝社 2017

II 日本の問題：未来の新しい価値とルールを考える

10/1

日本での「反緊縮」は可能か？ ——みんなのための経済政策を考える

講師交渉中

日本では今、職を失う不安、パワハラ、「サービス残業」、介護や育児の負担、賃下げなどで、5割を超える人が「生活が苦しい」と答えています。1990年代以降の日本の新自由主義政策を検証しつつ、これを根本的に転換する政策と政治のあり方を考えます。

10/15

「民営化」は万能薬か？ ——生きるための基盤としての「公共」を取り戻す

尾林芳匡 (弁護士)

鉄道から保育園・体育施設まで、「民営化」が進んでいます。現場の経費が削られ、株主や役員が巨額の配当・報酬を得ています。民営化途上での反対運動の例や、外国での水道再公営化も広がっています。市民の立場で「民営化」と「公共」の意味を考えましょう。



● 主著：『新 自治体民営化と公共サービスの質』自治体研究社 2008 / 『PFI神話の崩壊』(共編著) 自治体研究社 2009 / 『水道の民営化・広域化を考える (改訂版)』(共編著) 自治体研究社 2019



©Bartosz_Brzezinski

11/12

持続可能な「共感資本社会」へ ——仕事・人・地域のあり方を変える

新井和宏 (株式会社eumo 代表取締役)

SDGsやESGという言葉が一般的に使われるようになってきました。持続可能な社会を構築する上で、重要なのが共感です。共感資本社会とはどのような社会なのか。テクノロジーの使い方が、仮想通貨からソーシャルコインに進化して、共感マネーが社会を巡っていくこれからの時代について語ります。



● 主著：『投資は「きれいごと」で成功する—「あたたかい金融」で日本—をとった鎌倉投信の非常識な投資のルール』ダイヤモンド社 2015 / 『持続可能な資本主義』ディスカヴァー・トゥエンティワン 2017 ● 参考文献：新井和宏『持続可能な資本主義—100年後も生き残る会社の「八方よし」の経営哲学』ディスカヴァー・携書 2019 / 新井和宏『幸せな人は「お金」と「働く」を知っている』イースト・プレス 2017

大江正章 (PARC 共同代表/ジャーナリスト)

「地縁・血縁・社縁から、知縁・結縁・地域縁へ」。地域を資本＝ベースに、人や企業やNGOを結びつけて関係性が豊かな都市・農山村を創ることができると思います。



● 主著：『地域に希望あり—まち・人・仕事を創る』岩波新書 2015 / 『地域の一食・農・まちづくり』岩波新書 2008 ● 参考文献：ステファノ・バルトリニ著、中野佳裕訳『解説「幸せのマニフェスト—消費社会から関係の豊かな社会へ」』コモンズ 2018 / 柳澤大輔『鎌倉資本主義—ジブンゴトとしてまちをつくるということ』プレジデント社 2018

—— 関連特別講座のご案内 ——

**主権国家と民主主義は
グローバル資本主義をいかに規制できるか**
世界で広がる反グローバリズムの要因を分析した上で、今後求められる経済のあり方を、国家、市場、民主主義の3者の関係からお話いただけます。

◎ 講師：柴山桂太 (京都大学大学院人間・環境学研究所 准教授)

▶ 専門は経済思想。主な著書に『グローバル化の終焉を予見した『静かなる大恐慌』(集英社新書)、『グローバリズム その先の悲劇に備えよ』(共著/集英社新書)、エマニュエル・トッドとの共著『グローバリズムが世界を滅ぼす』(文春新書) など多数。



日程：10月～11月で調整中 19:00～21:00

場所：(千代田区内を予定)

参加費：1000円 (予定)

【主催・お申込・お問合せ】

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC)

東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

TEL.03-5209-3455 E-mail:office@parc-jp.org

* PARC 自由学校「グローバル経済と民主主義の未来—ルールを決めるのは誰か」講座にお申し込みいただいた受講生はこの特別講座にも無料でご参加いただけます

07

社会を知る
学校

- 2019年5月～7月
- 原則として水曜日
19:00～21:00
- 全6回 ●定員25名
- 受講料：20,000円

国境をまたいで考える： 日本と「朝鮮半島」

日本・韓国・「北朝鮮」——それぞれに政府が定めた明確な国境がありますが、人びとは現実には国境を越えて生活し、交流し、時代を創っています。国の理屈ではなく、社会のはざまに生きる生活者の視点からこれからの日本と朝鮮半島を一緒に考えてみましょう。

◎コーディネーター

キム・ギョンスク
金敬黙 (早稲田大学文学学術院 教授)

▶1972年、東京都生まれ。ソウルと東京で育つ。日本国際ボランティア協会(JVC)理事、オックスファム・ジャパン理事などを歴任。JVC事務局勤務、中京大学専任教員を経て2016年より現職。



5/22

「北朝鮮問題」の過去、現在、未来 ——人道支援のジレンマ

キム・ギョンスク
金敬黙 (早稲田大学文学学術院 教授)

「北朝鮮問題」として人道、人権、核開発、拉致、独裁などがあげられます。これらの問題について過去から現在まで、どのようなアプローチが「国際社会」によって展開されてきたのかについて考察します。とくに日本や韓国の市民社会がどのような形で個別または連携を組みながら「北朝鮮問題」に関わってきたのかについて2回に分けて考察を行います。その一回目として「人道支援のジレンマ」について考えます。

●主著：『非戦、対話、NGO』（共著）新評論 2017／『私、北朝鮮から来ました。ハナのストーリー』（共著）アジアプレス 2015 ●参考文献：李鍾元、木宮正史『朝鮮半島 危機から対話へ——変動する東アジアの地政図』岩波書店 2018

6/5

世界中に広がる脱北者 —— 難民と移住者の両義性

キム・ギョンスク
金敬黙 (早稲田大学文学学術院 教授)

「北朝鮮問題」に対する「国際社会」の関わり方を考察する。その二回目として「世界中に広がる脱北者 - 難民と移住者の両義性」について考えます。

6/19

ヘイトスピーチと在日コリアン

チョン・カンリョル
鄭康烈 (一橋大学大学院社会学研究科)

2000年代以降、在日コリアンに対する排外主義の気運が高まっています。2016年にはヘイトスピーチへの対策法が成立したものの、現在でもネットやテレビなどのメディア空間はヘイト言説があふれ、路上での排外主義デモも止むことがありません。この回では、ヘイトスピーチがその矛先となる在日コリアンに及ぼす影響を与えるか、そして在日コリアンはその状況にどのように対処しているのかについて考えます。

●参考文献：川瀬俊治・郭辰雄『知っていますか？ 在日コリアン一問一答』解放出版社 2014／地球村同胞連帯(KIN)・「高校無償化」からの朝鮮学校排除に反対する連絡会『朝鮮学校物語—あなたのとなりの「もうひとつの学校」』花伝社 2015



7/3

なぜ「朝鮮籍」で生きるのか

チェ・サファ
崔紗華 (早稲田大学グローバルエデュケーションセンター)

「朝鮮籍」を知っていますか。それは、北朝鮮国籍ではなく、実は(日本)の外国人登録法で規定されている登録上の表示です。事実上の無国籍とされています。「朝鮮籍」保持者は、就職、海外旅行、政治参加等において様々な困難に直面してきました。にもかかわらず、現在も約三万人が「朝鮮籍」を保持し日本で暮らしています。この回では、「朝鮮籍」を維持する一人の在日コリアンが、なぜ「朝鮮籍」を維持してきたのかをお話しします。その上で、在日コリアンとの向き合い方について考えます。

●主著：(2018)「東京都立朝鮮人学校の廃止と私立各種学校化—居住国と出身社会の狭間で—」『境界研究』2018年8月号 (<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicn/JapanBorderReview/no8/index.html>よりPDFを閲覧可)／「占領期日本における朝鮮人学校—学校の閉鎖と存続をめぐって」『政治公法研究』2015年108号 ●参考文献：田中宏『在日外国人—法の壁、心の溝—』岩波書店 2005／福岡安則『在日韓人・朝鮮人—若い世代のアイデンティティ—』中央公論新社 2002



7/17

交流を通して考える南北コリアと日本の未来

アーユス仏教国際協力ネットワーク
寺西澄子

経済的な結びつきは深まっている東北アジアですが、この地域を思うままに行き来できる人は限られています。情報が遮断されがちな隣国の脅威論が独り歩きして、「共存」や「平和」の実現は現実味が薄いと捉えるむきもあります。90年代からの北朝鮮人道支援および交流事業で、平壤をはじめ東北アジア各地を訪れて続けてきた日本のNGOの活動を紹介しつつ、交流の可能性と課題、そして私たちがどんな未来を望むかを考えます。

●主著：『北朝鮮の人びとと人道支援』日本国際ボランティアセンター編 明石書店 2004



7/31

朝鮮半島平和プロセスを考える

キム・ギョンスク
金敬黙 (早稲田大学文学学術院 教授)

2018年の南北首脳会談、米朝首脳会談は朝鮮半島の非核化をめぐる第一歩的な取り組みとなりました。その進め方をはじめ、日本と朝鮮半島、そして東アジアの「平和」を考える上で、何が見落とされているのか、どのような市民的な役割が模索されるべきなのか、などについて、コースの総合的なまとめを兼ねて展開します。



PARC 自由学校 2019 pacific asia resource center
freedom school

 Martin Talbot

表現・暮らしの学校

Creative Activities and Ways of Life

- 08 表現することは生きること
- 09 ビオダンサーいのちにふれること、からだで知ってゆくこと
- 10 女性のためのワークショップ からだと心の声を聴いてみよう

08

表現・暮らしの
学校

表現することは生きること

身体の中からは新しい視点が見え、ともに生きるエネルギーが湧いてくる講座です。さまざまな点で便利になった現代社会。しかし現代ほど一人ひとりが分断され、孤独を強いられる時代はなかったのではないのでしょうか。美しい理念や社会的正義すら人を分断するものとして機能してしまっています。アートは現代社会を反映し象徴しています。アートという一見曖昧で感覚的な現われの中に今を生きる私たちにとって大切なものが詰まっています。個人の思想から社会への問題提起までさらに言語や社会的な価値観だけではスパッと割り切れない曖昧な感覚、矛盾や混乱、葛藤といったものまでも、視覚的なイメージから導かれ〈感じる〉ことを通じて共有し分かちあうことができます。この講座では、「講義・解説」を聞いてアートを理解するだけでなく、〈感じたこと〉を人と共有し「対話」し、またさらに、実際に「表現すること」を通して表現の原点についてより深く知り作品の理解を深めていきます。アートを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にもおすすめ。ひとりで作品と向き合うだけでは見えてこなかった視点や自分自身を発見することができるでしょう。

- 2019年6月～
- 2019年12月
- 原則として木曜日
- 19:00～21:00
- 全12回 ● 定員20名
- 受講料：45,000円
(材料費・画材費込み)

※出かける回は現地への交通費・宿泊費・食費・展覧会費などが別途かかります。

◎講師.....

中津川浩章 (画家/アートディレクター/フリークレーター)

▶ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通じたコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、様々な人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、被災地を含む全国各地へ。



6/13

リレーして絵を描く：「対話しながら一枚の絵を見てみよう」

絵を見て感じたことを感じたまま話し共有し、グループワークから粘土で立体を作ります。参加者全員でリレーして一枚の絵を描きます。マーク・ロスコ、G・バゼリッツ、G・リヒターなどの現代絵画を見て感じたことを感じたまま話し共有し表現します。



6/27

「印象派とV・ゴッホとヨーロッパの近代」 点描体験

印象派の成立からヨーロッパの近代を考えゴッホの近代的自我と絵画を語ります。モノクロームの画面からカラーへの移行を制作します。静物を明暗を鉛筆で表現。そこから点描の方法で水彩画を描きます。



7/13(土)

国立新美術館を訪ねる

展覧会を見に行き、その印象をダイアログ

国立新美術館「ウィーン・モダン／クリムト、シーレ 世紀末への道」展を観ます。その印象や感じたことを対話し、言葉や水彩画で表現します。

7/25

プレゼンテーションと講評 その1

前期の講義で描いた作品について、どんな思いで何を感じながら作ったのかを発表します。自分でつくった作品を語ることで気づき、他者の感想を聞くことで新たな発見があることでしょう。

9/7(土)～8(日)

東京近郊で1泊2日合宿

「自画像は語る」

フリーダ・カーロを中心とした様々な画家の自画像を見て語り合い、様々な視点から自画像を描きます。なぜアーティストたちは、自画像を描きつづけてきたのか？フリーダ・カーロ、レンブラント、ゴッホ、ピカソなどの作家の自画像を見て語り合います。作品を味わった後で、さまざまな角度から自己を観察し、じっくり時間をかけて自画像を制作します。

9/19

「シュルレアリスムと夢ドローイング」

夢日記からドローイングを描き、シュルレアリスムや無意識について考えます。

夢は自我や無意識の反映だけでなく、日々の生活や社会からの情報をも反映しています。シュルレアリスムの作品について対話しシュルレアリスムと関係する夢・無意識について考えます。そのあと、夢日記から水彩・クレヨンによる夢ドローイングをします。

10/3

「イメージと記憶の交差点」

歴史的に重要なアート、広告写真を見て対話し、自分だけの写真集をつくります。

写真史とともにアンリ・カルティエ・ブレッソン、U・アッジェ、ダイアン・アーバス、広告写真などをレクチャー、語り合い、その後写真集を作ります。

10/17

「自分って何だろう？」アートセラピーとシュルレアリスム

アートセラピーやそれに関するアート、アーティストについて知り、マンダラ・コラージュの方法を使って体験します。

11/2(土)

埼玉県川口市を訪ねる

埼玉県川口市・アート施設「工房集」を訪ねる

アウトサイダーアートの現場へ

世界的に活躍している作家を生み出している障害者のアート施設「工房集」の展覧会を訪問します。

11/14

「日本の近代美術と戦争画」

日本の近代美術と戦争画を通じて日本の近代化を考えます。グループワークから紙粘土で立体を作ります。

感じたことをダイアログし、鉛筆画を制作しグループワークで紙粘土で立体をつくります。

11/28

「表現の本質って？」

アール・ブリュット、アウトサイダーアートの代表的な作品を見ながら、「表現すること」そのものについて考えてみましょう。ワークではグループで紙粘土で立体作品を作ります。

12/12

プレゼンテーションと講評 その2

これまでに作った作品について、互いに感想や意見を出し合うことで、さらに深めます。アートは誰にでも表現でき、語れると実感することが大切です。時代や状況が変わっても、一人ひとりの生きるエネルギーとしてのアートの本質は変わりません。作って終わりではなく、時代を見る目と表現の楽しさを体験し、語り合しましょう！

09

表現・暮らしの
学校

ビオダンサ

——いのちにふれること、 からだで知ってゆくこと

●2019年6月～12月

●原則として木曜日

19:00～21:30

内容によっては若干の延長がある
場合もあります。

●全13回 ●定員20名

●受講料：53,000円

●会場：国立オリンピック

記念青少年総合センター

(渋谷区代々木神園町3-1)

※合宿の交通費・宿泊費・食費
などが別途かかります。

ビオダンサ (biodanza = 生命のダンスを意味します) は、チリの教育者、詩人、人類学者、心理学者のロランド・トーロ・アラネダ (Rolando Toro Araneda) が構築したダンスワークです。

星々の軌道、四季の循環、潮の満ち引き、風のメロディー、心臓の音、呼吸、歩調など、今も昔も、私たちの内と外にはたくさんの音楽があふれています。トーロは、人がそれらとのつながりを失いつつあることと、人間中心、経済中心の社会になってきていることは、深くかかわっていると直観していました。

ビオダンサのクラスでは、音楽のリズムや流動性の中で、脈動し、出会い、関わりあい、表現していきながら、生命の中にある創造性や調和の力を取り戻していきます。みなさんとの1回1回の出会いのなかで、ともに発見していくプロセスを楽しみにしております。ダンス経験は必要ありません。

◎講師

内田佳子 (ビオダンサファシリテーター)

◆参考ウェブサイト: 日本ビオダンサファシリテーター協会:
<https://www.biodanza.jp/>

▶ブラジル音楽に惹かれ、サンバチームでの活動を経て、ブラジルの住民運動を支援するNGOに参加。ブラジルでビオダンサに出会い、2000年に初めてビオダンサを日本に紹介。ファシリテーター資格、養成資格、子ども・思春期向けファシリテーター資格を取得。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らも様々なワークや勉強会に参加し、心と身体とのつながりを探究し続けている。日本ソマティック心理学協会会員。同ソマティック・プラクティショナー・ネットワーク世話人。



7/11

フィードバック①

関係性の中では、自分を感じる力と、相手を感じる力の両方が生き生きとはたらくことで、お互いが心地よくいられるスペースが生まれていきます。第2回の「つながり」をベースにこの回では、感じること、伝えることをより丁寧に体験していきます。

7/25

快を味わう

心地よさを感じる力は、私たちが生まれ持つ才の一つです。頑張る身体から、悦ぶ身体へ。動きのなかで、それぞれの快に出会っていきます。

6/13

プロローグ

ビオダンサに関する簡単な説明、自己紹介に続いて、言葉を介さない出会いとコミュニケーションへ導入していきます。グループとしてはじめの一歩です。

6/27

つながりのなかへ

ビオダンサでは、自分とのつながり、他者とのつながり、全体とのつながりを、動きの中で体験していきます。どのつながりが先か、という順番はありません。ひとりひとりの自由な表現、誰かとのかけあい、グループでのダイナミズム～様々な状況がもたらしてくれる感触を味わっていきます。





9/5

陰陽を踊る

互いに補いあいながら万物を創造する「陰」と「陽」。対照的な2つの動きを体感するダンスを通じて、私たちの中にある創造性の源に触れていきます。

9/19

内なる自然を踊る

四元素「地、火、空気、水」この内のいずれかに焦点をあてて、掘り下げていきます。

9/28(土)～29(日)

1泊2日合宿 

ビオダンサ秋合宿！！

自然とふれあうひとときは、身体の内側からの求めに耳を澄ませる絶好の機会です。ゆるやかな時の流れのなかで、私たちの内と外で息づいている自然とふれあっていきましょう。

10/3

フィードバック②

第3回のテーマをさらに深めていきます。

10/17

ふれあいのアート

肌と肌のふれあいは、私たちの生命機能の発露や生きていく喜びと深く関わっています。自己調整を大切にしながら、ふれること、ふれられることが与えてくれるものを再発見していきます。

10/31

ミステリー・ツアー①

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターが特定のテーマを選んでクラスを行います。

11/14

コミュニティを脈動する

ともに活動し、ともに休息することによって永らえてきた生き物としての智慧を、リズムカルな動きと、ゆったりとした安らぎの中で、再発見していきます。

11/28

ミステリー・ツアー②

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターが特定のテーマを選んでクラスを行います。

12/12

フィナーレ

共に歩んだサイクルの終わりを、グループで祝いつつ、踊り納めをしていきます。



★ビオダンサ自主講座のご案内

(開催期間2019年1月～5月)

自由学校が開催されるまでは2018年度受講生有志による自主講座が行われています。お気軽にご参加を！ →詳細はP.43へ

10

表現・暮らしの
学校

- 2019年5月～8月
- 原則として隔週金曜日
19:00～21:00
- 全6回
- 受講料: 20,000 円
- 会場: 千代田区内施設

女性のためのワークショップ からだと心の声を聴いてみよう

仕事・家事・育児・介護…さまざまな役割を女性が多く担う現実はなかなか変わりません。「自分と向き合う」「自分をいたわる」余裕も取れず、とすれば内面の心情や感覚に目を瞑って生きることすらあります。

でも、からだは正直で日々の疲労や違和感を溜め込み、痛みや疲れ・イライラというサインを出します。これを無視すれば、本来持っている自然治癒力もおち、やがて病気という形で表に出ることも…。日々のちょっとした時間でリセットしていくことは、未来のからだや心の不調を予防するためにも大切です。社会という大きな波の中で、自分らしい健やかさを見失わず活力を持ち続けられるためにも。

この講座では、実践を中心に、ゆるみ・リフレッシュの時間を過ごしながらかご自宅でもできるような疲労回復・体力アップのためのノウハウを学んでいきます。日頃のちょっとした意識の切り替えやケアで、からだと心の軽やかさ・生きやすさを育むワークです。

明日からの活力へと変わるよう、楽しくリフレッシュしていきましょう。

※毎回体を動かしますので、動きやすい服装にてご参加ください。

◎講師

大熊彩楓 (トータル女性ホルモンバランスプランナー/セラピスト)

▶カルチャーセンターや個人主催などで、『女性のための健康講座』や『巡りUPエクササイズ』の講師を務める。美容・健康維持、月経トラブルや更年期の悩み軽減を目的に、自ら開設するプライベートサロンにて、トリートメントと体質改善パーソナルアドバイスをやっている。



6/22(土) 14:00～17:00

からだと心の整え方① ～内側に目を向ける・共有する

呼吸やストレッチなどで心身をゆるめた後(毎度行います)、ご自身のからだや心に目を向け書き記すことで、ご自身の傾向を確認します。からだに不調が出やすい方、メンタルが揺らぎやすい方、人それぞれです。日頃溜め込みがちな不安を口にしながら緊張を緩め、解決のヒントを見つけていきましょう。

7/5

からだと心の整え方② ～思考を休め体の巡り力を促す

3つ目に大切と言われる運動は、筋肉だけでなく脳にも作用すると言われます。ストレッチで肩こりや腰痛を和らげ、初めての方でもできるような軽度のリズムエクササイズや骨盤ワークで血行を促してからだも心もリフレッシュ!リズムに合わせ動く事で、不安やイライラ・浅い眠りを和らげるセロトニンも刺激します。

7/19

からだと心の整え方③ ～和らげる・癒す・力を蓄える

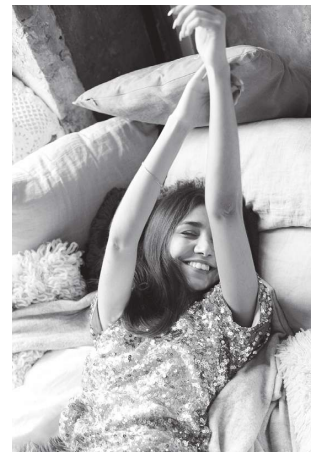
アロマの香りに癒されながら、セルフマッサージで副交感神経を促し、からだと心を緩めていきましょう。自分へのケア・人とのふれ合いは幸福ホルモンも活性化されます。積極的にOFFの時間を用いることで本来の自然治癒力や回復力を高めていきます。

8/2

まとめ

楽しかったことや心地よかったこと、明日からまずできそうな事、からだや心の変化などの振り返りを行い、補足やワークの確認を行っています。

●参考文献:島山すみ「セラピストのための女性ホルモンの教科書」BABジャパン 2015



5/31 19:00～21:30

オリエンテーション&身一つ、一人のわたし・たち 花崎 晶 (心理カウンセラー/ヨーガトレーナー)

PARCやこの企画全体のご紹介をさせていただくとともに、この場をリラックスできる場にするために、みなさんをお願いしたいことや協力できること、互いを少し知り合う話し合いなどをおきたいと思っております。そして何より気持ちのいいヨーガや呼吸法を実践しながら、自分の内側と向き合ういくつかの方法を体験してみましょう。



©Miguel

6/7

女性の心身の変化と環境・生活

女性ならではの年齢に伴う変化・社会環境・自己イメージ等、からだと心との関係に触れていきます。また、心身の体力や健康の基本といわれる睡眠・食生活についてそれぞれに振り返り、女性の今後特に必要な栄養など、快適に歩み続けるためにできる日常でのちょっとしたコツなども持ち帰っていただきます。



PARC 自由学校 2019 pacific asia resource center
freedom school

 Andrew McD

ことばの学校

Language

- 11 武藤一羊の英文精読
- 12 ケイトリンの“What's Happening In The World!?”
- 13 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

畑の学校

Farming

- 14 畑で実践!! 〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

11

ことばの学校

- 2019年5月
～2020年1月
- 原則として隔週水曜日
19:00～21:00
- 全15回 ●定員15名
- 受講料: 46,000円

武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込むクラスです。ことばの一つひとつの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年はナン・リンの「ソーシャル・キャピタル—社会構造と行為の理論」(Social Capital—A Theory of Social Structure and Action)を読みます。

テキスト: Nan Lin, "Social Capital—A Theory of Social Structure and Action" Cambridge University Press 2002 ※テキストは事前に各自でご購入ください

◎講師

武藤一羊 (ピープルズ・プラン研究所 運営委員)



▶1931年生まれ。「ベトナムに平和を! 市民連合」での活動を経て、1969年に英文雑誌『AMPO』の創設メンバーとして日本の情勢を世界の知識人に発信する。1973年「アジア太平洋資料センター (PARC)」の設立に関わり、1996年まで代表を務める。1998年「ピープルズ・プラン研究所」を設立。社会評論家としてノーム・チョムスキーなどの知識人と国際的な親交をもつ。

●主著:『戦後レジームと憲法平和主義—(帝国継承)の柱に斧を』れんが書房新社 2016/『潜在的核保有と戦後国家—フクシマ地点からの総括』社会評論社 2011/『アメリカ帝国と戦後日本国家の解体 新日米同盟への抵抗線』社会評論社 2006 ●共訳書:ジャイ・セン他『世界社会フォーラム 帝国への挑戦』作品社 2005

◎クラスの進め方

各回の予習箇所について、参加者がそれぞれ約1ページずつ、文章を訳していきます(挙手制)。そして、テキストの内容に関するディスカッションを日本語で講師と参加者で行います。英文の読解力を高めたい人にピッタリのクラスです。武藤一羊さんの鋭いコメントも魅力の一つ。

こんな人におすすめ!

- ・一冊の本を深く読み込む力を身につけたい方
- ・社会的ネットワークの形成などに興味のある方やその理論的背景を知りたい方

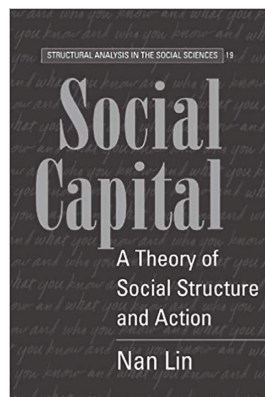
日程

第1回: 5/22	第5回: 7/17	第9回: 10/9	第13回: 12/4
第2回: 6/5	第6回: 7/31	第10回: 10/23	第14回: 12/18
第3回: 6/19	第7回: 9/11	第11回: 11/6	第15回: 1/8
第4回: 7/3	第8回: 9/25	第12回: 11/20	

今回は、社会についての論考でしばしばお目にかかる“Social Capital”に食いついてみたいと思います。社会における個人や小集団などの水平で自発的なつながり(ネットワーク)とその活動が社会を支え、豊かにする役割を果たす点に注目して、それをソーシャル・キャピタルと呼ぶ、というのがごくおおまかな定義。電気、水道などのインフラと混同されるので、これを社会関係資本と訳するのが通例のようです。Nan LinはDuke大学の教授、中国の人民大学でも教えていて、中国革命での社会制度の形成も考察対象です。今日の行き詰まった資本主義体制に、下からの対抗社会をどう作れるのか、という問題意識でこの本を読みたいと思います。

テキスト著者: ナン・リン (デューク大学社会学部 教授)

▶1938年中国生まれ。1976年ニューヨーク州立大学オールバニー校社会学部教授に就任し、1979年～1982年に同学部長を務める。その後1990年から現職。社会ネットワーク及び社会関係資本を主なテーマに研究活動を展開。本講座のテキストは代表的著書であり、『ソーシャル・キャピタル—社会構造と行為の理論』(ミネルヴァ書房 2008)として和訳されている。



12

ことばの学校

ケイトリンの“What's Happening In The World!?”

- 2019年5月～12月
- 原則として土曜日
15:00～17:00
- 全12回 ●定員15名
- 受講料: 38,000円

このクラスでは、インターネットのニュースサイトやブログ、ビデオや映像など、様々な英語のコンテンツを読んだり、見たりしながらインスピレーションを得て、議論していきます。インドやオーストラリアでの環境保護運動を調査・研究する国際政治学徒で、日本の自然や文化を愛するエコロジストと多彩な顔を持つケイトリンさんを講師に、英語での表現を楽しく、そして丁寧に学んでいきます。会話やエッセイを通して、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。

◎講師

ケイトリン・ストロネル

(認定NPO法人原子力資料情報室 スタッフ/浅川金刀比羅神社 神主/
「ニュー・インターナショナルリスト誌」日本代理)

▶オーストラリア出身。高校生の時に交換留学生として初来日。慶應義塾大学大学院で政治学を専攻。その後インドのネールー大学に7年間滞在し博士号を取得。神主、環境運動家、雑誌発行人と多彩な顔を持つ。3.11で原発の危険性に目覚め、現在はNPOのスタッフとして脱原発の世界を目指している。



◎クラスの進め方

毎回、その時々ホットトピックについてのニュース映像や記事を取り上げます。

重要な表現や単語の意味を講師が丁寧に解説した上で、参加者同士で感じたことを自由にディスカッションします。

初めて英語の勉強をする人でも安心のクラスです。話す力や聞く力が身につきます。

こんな人におすすめ!

- ・環境問題や社会問題について英語でディスカッションできるようになりたい方
- ・日本の社会・文化について英語で説明できるようになりたい方

受講生の声

NORIKOさん

今回初めてPARCの英会話クラス「What's Happening in the World!?”を受講。

読み書きは大丈夫でも会話はついていけない不安でした。

でもそのためのクラスだからと飛び込んでみたら、英語レベルはまちまちでも皆さん個性的で積極的に参加されており、ケイトリン先生がそれを上手にフォローしながらコーディネートして下さるので、興味深いテーマについて英語で話し合う刺激的で楽しい時間を過ごせました。

ダッチョマンさん

とにかく最高のクラスです。ケイトリン先生はとにかく優しく、どんなに下手くそな英語であっても、必ず好意的なコメントを返してくれて、話しやすい雰囲気を作って下さいます。また受講生も素晴らしく、知的でユーモアに溢れた人ばかりです。リピーターが多いのもうなずけます。私も、来年度も必ず受講したいと思います。

金子トシさん

2019年のケイトリンの「What's Happening in the World!?”にも参加希望します。

とても暖かい、いいクラスです。ろくに英語ができない私でも本当に楽しい時間です。ありがたいです。

日程

第1回: 5/25 (土)	第4回: 7/6 (土)	第7回: 9/28 (土)	第10回: 11/23 (土)
第2回: 6/8 (土)	第5回: 7/20 (土)	第8回: 10/12 (土)	第11回: 12/7 (土)
第3回: 6/22 (土)	第6回: 9/14 (土)	第9回: 11/9 (土)	第12回: 12/21 (土)

13

ことばの学校

世界のニュースから 国際情勢を読み解こう

- 2019年5月
～2020年1月
- 原則として隔週火曜日
10:30～12:30
- 全15回 ●定員20名
- 受講料: 42,000円

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論するクラスです。開発、経済、貿易、食の問題など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そして溢れる情報を判断する力を身につけると同時に、様々なものの見方や考え方に会うことができます。

◎講師

廣内かおり (アフリカ日本協議会 TICAD・国際保健担当コーディネーター)

▶市民団体のメンバーとして遺伝子組み換え問題やTPP問題等の翻訳、通訳に協力しながら、フリーランスとしても翻訳を行う。共訳書にリチャード・J・サミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』英治出版 2016など。



田中 滋 (PARC事務局長)

▶米国コーネル大学在学時からACORN (Association of Community Organizations for Reform Now) をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク (RIPESS) やアジア太平洋調査ネットワーク (APRN) など国際的なNGOネットワークの理事も担う。



※前期・中期・後期で各講師が分担して担当します。

◎クラスの進め方

事前に講師から送られる海外のニュース記事やNGOのレポートなどを参加者全員で読み説きます。

講師それぞれの市民活動の視点から、ニュースの背景にある社会現象の解説を加えます。英日翻訳やニュースの読み方、NGOスタッフに必要な英文読解力が身につくクラスです。

2018年度のクラスで扱った主なテーマ

- ・世界で最も多用されている除草剤「ラウンドアップ」とその毒性
- ・持続可能な開発目標 (SDGs) と健康
- ・西サハラをめぐる外交問題
- ・米人口調査とその政治性
- ・ヨーロッパの軍事費増額と移民対策
- ・採掘メジャーと政府と先住民族と
- ・米国最高裁判官の任命について
- ・フィリピンバナナの生産現場の問題
- ・水道サービスの民営化とその弊害 (米国地方都市の事例)
- ・英国労働党の動向

こんな人におすすめ!

- ・日本のことが海外でどのように報じられているのかを知りたい方
- ・日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方
- ・世界のNGOやインディペンデントジャーナル、批評家の視点や分析を知りたい方

日程

第1回: 5/28	第5回: 7/23	第9回: 10/22	第13回: 12/17
第2回: 6/11	第6回: 9/10	第10回: 11/5	第14回: 1/14
第3回: 6/25	第7回: 9/24	第11回: 11/19	第15回: 1/28
第4回: 7/9	第8回: 10/8	第12回: 12/3	

14

畑の学校

畑で実践！！

〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

- 2019年5月～12月
- 原則として隔週日曜日
9:00～12:00

(作業内容によっては午後までかかることもあります)

- 定員20名
- 受講料：54,000円

(指導料、農具・資材使用料、プランター代、保険料込)

埼玉県富士見市の畑で、固定種・在来種のとねとり（自家採種）を基本とし、農薬・化学肥料や有機肥料に頼らず、自然や土の力を生かした無肥料自然栽培の基本を実習で学ぶ講座です。この道16年のベテラン講師から実地を交えて学びますので、農作業が初めての方でも大丈夫！

実際に畑に通い、野菜を育てながら、たねまき、野菜の手入れ、母本選抜、収穫、種とり（脱粒）、芽かき、摘心、剪定、間引き、移植、など一通りの作業を実践で身につけていきましょう。季節ごとの収穫もお楽しみの一つです。

一人ひとり、プランターを手作りし、自宅でも自然栽培にチャレンジしていきます。〈たねまき〉から〈たねとり〉まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめてみませんか？

◎講師

関野幸生

▶無肥料自然栽培を始めて16年目。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行なう。『固定種野菜の種と育て方』を飯能市の野口種苗研究所、野口勲氏と共著にて創森社より出版。



◆企画運営協力：H-seed to seed (HSS)

◎講習の進め方

毎回畑で講習を行いながら実習を行います。クラスのメンバーで一つの区画にて一緒に作業を進めていきます。

- ・菜園の場所：HSS圃場 埼玉県富士見市（東武東上線 柳瀬川駅より徒歩15分程度）
※詳細な場所はお申し込み後にお知らせいたします。
- ・雨天の場合は代替日への振替、もしくはPARC自由学校教室での座学講習会を開催いたします（講習会時間：10時～12時）。変更の連絡は前日18時までにお知らせいたします。
- ・日程、内容は状況に合わせて変更することがあります。ご了承ください。
- ・畑にはトイレ、水道、ロッカーはありません。
- ・畑で使う軍手、長靴、ハサミなどは各自でご用意をお願いいたします。



畑での実践講習

5/19	9/15
6/2	10/6
6/16	10/20
7/7	11/3
7/21	11/17
8/4	12/1
8/18	12/15
9/1	



1/19(日) 14:00～16:00

会場：PARC自由学校（東京都千代田区神田淡路町1-7-11）
1年間のふり返りと最後の講習を行います。終了後は懇親会を予定しています。



写真撮影：柿内未央

5/16(木) 19:00～21:00

オリエンテーション

会場：PARC自由学校（東京都千代田区神田淡路町1-7-11）
申込手続きを完了された方が対象です。無肥料自然栽培の基礎知識講座の進め方など詳細な説明を行いますので、かならずお越しください。欠席される際には別途対応いたしますので、ご相談ください。



秩父雑穀 自由学校の ご案内

開講6年目の秩父雑穀自由学校(埼玉県秩父市)は1年を通じて、キビ、アワ、ヒエ、ソバ、大豆など雑穀を中心に栽培します。日本ジオパークに認定されている秩父の古地質大地で稲作以前の主食であった雑穀を作って、食べてみませんか。先人たちがこの大地と共存してきた知恵がここにはまだまだ残っています。種子、栽培の仕方、道具、そして保存と料理法など近代農業以前の農と食を体で学んでみませんか。月に一度畑に通い、仲間たちと語りながらの作業も楽しいですよ。単発参加も大歓迎です!

◎コーディネーター：西沢江美子(農業ジャーナリスト)

●畑の所在地：埼玉県秩父市大宮

(西武秩父駅から秩父鉄道秩父駅から歩いて25分ほど)

※車での参加も可能です。※詳細はお申し込み後にお知らせします。



講師：農民であって教師の佐野守平さんと農民の八木原章雄さん

●期間：2019年4月から1年間。毎月1回定例開催

(基本的に第3土曜日に開催します)

●参加費：年間参加10,000円(初回に集めます)

単発参加の場合は1回2,000円

※現地までの交通費は含まれません。※秩父事件現地訪問、竹細工、つる細工、料理などは、別途実費、宿泊費、食費などがかります。

●初回：2019年4月20日(土) 10:30~16:00(予定)

主なプログラム

- 1年を通じ、できるだけ在来種子の雑穀(キビ、アワ、ヒエ、高キビ、大豆(秩父在来の借金なし)、ソバ、麦(日本初のパン用小麦、国策として開発された鴻巣25号)などを育てます。
- 雑穀の輪作としてサツマイモ、ジャガイモ、大根、白菜など野菜も育てます。
- 秩父特有の農業のお話
- 畑の雑草を減らすため、野草・雑草の食用利用法(スベリヒユ、アカザ、アオザ、タンポポ、クワイモ、野カンゾウ、ノビル、ヨモギなど)。
- 野草と漢方について。お茶の作り方
- 桑の実、梅の実、野の花のジャム作り
- 秩父事件を訪ねる旅(1泊2日)
- 竹細工をしながら自然の道具の話
- 横瀬の棚田で稲をつくってみよう。



年間スケジュール(予定)

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 4/20(土)：開講。「雑穀自由学校」の目指すものの説明。畑の準備、麦の手入れ、クワイモ掘り |
| 第2回 | 5/18(土)：大豆まきの準備。野草、雑草を食べる。外来タンポポつみ。麦収穫 |
| 第3回 | 6/15(土)：大豆と雑穀まきの準備。桑の実、梅の実とり。麦収穫 |
| 第4回 | 7/20(土)：雑穀まき。畑の草刈り、草取り |
| 第5回 | 8/17(土)：草取り。クワイモの花つみ。防鳥ネット掛け |
| 第6回 | 9/21(土)：クワイモの花つみ。草取り |
| 第7回 | 10/19(土)：雑穀収穫 |
| 第8回 | 11/16(土)：小麦をまく |
| 第9回 | 12/21(土)：雑穀・大豆脱穀。整理 |
| 第10回 | 1/18(土)：畑しまい。野菜の冬越しの仕方。収穫した麦とそばでそば打ち&うどんづくり |
| 第11回 | 2/15(土)：借金なし大豆で味噌づくりとイチゴ狩り |
| 第12回 | 3/21(土)：閉講式。収穫物分配。レシピ交換 |



秩父の山間地で作られていた地種の大豆「借金なし」を栽培し、味噌づくり



高キビの収穫作業



よく育ったパン用小麦「鴻巣25号」

※定例(第3土曜日)以外でも作業があることもあります。参加できる方々で作業を行います。

※日程は天候、畑の状況によって変更することもありますのでご了承ください。

〈主催〉秩父雑穀自由学校事務局

〈問合せ・お申し込み先〉chichibuzakkoku@gmail.com

埼玉県秩父市大宮5734-4(西沢江美子)

TEL&FAX：0494-25-4782



PARC 自由学校 2019 pacific asia resource center
freedom school

 Wonderlane

特別講座・ツアー

Special Courses, Tour

- ・時代・社会を問い続ける者たち
- ・ワンコイン・シネマ・トーク
- ・アクションツアー沖縄 2019—平和の祈りを沖縄から
- ・あるがままの自分が認められる場所「やまなみ工房」を訪問する旅

時代・社会を

問い続ける者たち

6月18日(火) 10:30~12:30

差別・障害・優生思想

—やまゆり園事件を考える

最首 悟 (和光大学 名誉教授)

「いのち」とずっと真摯に向き合われてきた立場から、やまゆり園事件について植松被告との手紙のやり取りについて思うことや、障害を持って生まれてきた娘と向き合う中で思うことについてお話しいたします。



●主著：『星子が居る一言葉なく語りかける重複障害の娘との20年』世織書房 1998／『「瘡(ひ)」という病いからの—水俣誌々パート2』どうぶつ社 2010

7月16日(火) 10:30~12:30

民と民がつながる世界

—「民際協力」の意義

中村尚司 (パルシック 理事/龍谷大学 研究フェロー)

援助する・されるの関係性ではなく、民と民が協力しあう民際協力の在り方を問うて来た経験からこれまでの活動とこれからの日本とアジアの関係性についてお話しいたします。



●主著：『人びとのアジア』岩波新書 1994／『豊かなアジア、貧しい日本』学陽書房 1989

7月2日(火) 10:30~12:30

法は誰のためにあるのか？

大谷恭子 (弁護士/永山子ども基金 代表)

これまでに永山則夫事件や数多くの青少年のかかわる事件、特に近年では少女と若年女性の尊厳にかかわる事件を担当されてきた大谷恭子弁護士に、印象に残った事件やそれをそれを通して考える法と国家の在り方についてお話を伺います。



●主著：『共生社会へのリーガルベース—差別とたたかう現場から』現代書館 2014／『それでも彼を死刑にしますか：網走からバレーへ—永山則夫の遙かなる旅』現代企画室 2010

7月30日(火) 10:30~12:30

映像を撮ることの意味、見せることの意味

本橋成一 (映画監督/ポレポレタイムズ社 代表取締役)

炭鉱、サーカス、屠場など数多くの題材を選んで映像を撮ってこられた経験から、そこにいる人びとや風景にどのように引き寄せられるのか、それを撮る意味、そして見せる意味をどのように考えるのか、お話しいたします。



●主な作品：写真集『炭鉱(ヤマ)』(新版)海鳥社 2015／映画『アレクセイと泉』ポレポレタイムズ社 2002

この不条理に満ちた世界一。ときに国家や組織による構造的な暴力、不正、個人に内面化された差別、一人ひとりの生命や権利、自由が尊重されず奪われていくこともある社会。生まれ落ちた‘時代’とこの日本‘社会’をいかに生きるのかは、すべての人に差し出された問いといえるでしょう。

この講座は、独自の視点で社会を見つめ、半生をかけて実践的な活動、あるいは表現・思想を積み上げ、いま現在も「人びとへの問いかけ」と「社会変革へのアプローチ」を続ける、さまざまな分野の講師が登場します。

長年の経験を通じて、いま何を問うのか、未来をどう展望しているのかなどを提起していただきます。参加者にも活発な議論と交流を期待します。

*単発でも参加できるオープン講座ですが、継続参加を歓迎します。できればシリーズ全体を通して、自己を振り返り新たな視点を得る機会となり得るような、継続的なクラス内対話をめざします

- 2019年6月～ ●原則として火曜日10:30～12:30 ●定員30名
●受講料：各回1,000円 ※5回分以上のまとめ払い各回900円 ※25歳以下無料

9月3日(火) 10:30～12:30

東電原発事故による放射能汚染は科学者に何をもたらしたのか

崎山比早子 (医学博士/元国会事故調査委員会 委員/元放射線医学総合研究所 主任研究官/高木学校/原子力教育を考える会 メンバー/3.11甲状腺がん子ども基金 代表理事)

科学者は本来真理を追究する人と考えられています。東電原発事故後、科学者は二分化し、その信頼を失いました。科学に信頼を取り戻すために市民科学者にできることは何か、何をすべきか考えます。



●主著：「放射線教育の問題点—なぜ低線量放射線リスクは“わかっていない”とされるのか」『科学』2012年10月号 岩波書店/「医療被ばくのリスク」『日本整形外科学会誌』2018年92号237-250 日本整形外科学会 ●参考文献：高木学校(編著)『レントゲンCT検査 医療被ばくのリスク』ちくま文庫 2014/東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』徳間書店 2012

9月17日(火) 10:30～12:30

肯定と非暴力という姿勢

小泉英政 (小泉循環農場/憲法いいね!の会 主宰)

成田空港反対運動で三里塚で暮らし45年になる。空港反対の基礎にあったのは「この地で農業を続けたい」という肯定的な思い、有機農業はその思いをさらに豊かなものにした。肯定と非暴力という姿勢から社会と向き合う視点と運動を模索する。



●主著：『土と生きる—循環農場から』岩波新書 2013/『みみず物語—循環農場への道のり』コモンズ 2004

9月29日(日) 14:30～16:00

神奈川県横須賀市を訪問

市民が運動する・発信する・生きていく

新倉裕史 (非核市民宣言運動・ヨコスカ)

モットーは「理想を高く掲げない」。そして「持続に耐える」。基地のまちで、希望を見つけるためのキーワードは「糾弾よりも対話」。さて、どんな話に…



●主著：『横須賀、基地の街を歩きつづけて—小さな運動はリヤカーとともに』七つ森書館 2016

※横須賀市施設にてお話を伺った後、希望者は新倉さんが40年以上続けている月例デモにご参加いただけます

◎2019年10月以降の開催については依頼中です。追ってアジア太平洋資料センターウェブサイト (<http://www.parc-jp.org/>) などに更新情報を掲載する予定です。

ワンコイン・シネマ・トーク

●2019年6月～10月 ●全5回 ●参加費：各回500円 ※特別オープングラスにつき、どなたでも参加可能です。

6/3(月) 19:00～21:30

テーマ：2020年東京オリンピックは誰のため？

■上映作品：『検証！オリンピック—華やかな舞台の裏で』(2014年、25分、監修：谷口源太郎)

講師：谷口源太郎 (スポーツジャーナリスト)

検証！オリンピック
～華やかな舞台の裏で～

【内容紹介】 2020年夏に開催される東京オリンピック・パラリンピック。開催が刻々と迫るなかで、建設現場の過酷な労働環境や、「ボランティア」という名のタダ働き動員に、悲鳴や疑問の声が上がリ、招致をめぐる不正疑惑は海外でも大きく報じられています。この「平和の祭典」はいったい誰のために行われるのでしょうか？



招致決定後の2014年に発表された映像作品を上映後、監修者の谷口源太郎さんによる解説。一年後に迫り、さまざまに露呈している東京五輪をめぐる問題の根幹には何があるのか？ スポーツのあるべき姿とは？ 議論します。

7/1(月) 19:00～21:30

テーマ：「見えない油」の向こうにある人権問題と環境破壊

■上映作品：『パームオイル 近くて遠い油のはなし』(2009年、22分)

講師：飯沼佐代子 (地球・人間環境フォーラム)



【内容紹介】 アブラヤシの実からとれるパームオイル。加工しやすい便利な油として、インスタントラーメンやスナック菓子、チョコレートなどさまざまな食品や、洗剤などの製造に使用されています。しかし、その調達の下には、農園開発によって住む土地から追い出される人びとや、低賃金・劣悪な労働環境で働かされる人々の姿、そして、熱帯林の消失と生物多様性の喪失という現実がありました。



観賞後には、飯沼佐代子さんによる解説。熱帯林が失われ続けている現状から、持続可能な調達のための認証制度をめぐる課題まで、私たちが知らないうちに大量消費している「見えない油」の現在についてお話いただきます。

8/5(月) 19:00～21:30

テーマ：記録映画から読み解くオリンピック

講師：永田浩三 (武蔵大学 教授/ジャーナリスト)

【内容紹介】 来年東京で開催されるオリンピック。しかし、私たちの多くにとって、開会式・閉会式や競技を目にするのは映像を通してです。オリンピックと映像ははたしてどのような関係を結んできたのでしょうか？



手がかりとなるのが、レニ・リーフェンシュタール監督『オリンピア』(「民族の祭典」・「美の祭典」1938年)と市川崑監督『東京オリンピック』(1965年)です。それぞれ1936年ベルリン五輪と1964年東京五輪を撮影した両作は、ともに映画史に残る傑作として知られる一方で、記録と演出、芸術と政治をめぐる議論を呼んできました。二つの作品を検証することは、政治イベントとしてのオリンピックと向き合い、中継やニュース速報のような映像の自明性を疑う機会ともなります。

ドキュメンタリー制作に詳しい永田浩三さんに映像を交えてお話いただきます。

グローバル化の時代といわれる今日、私たちは、身の回りにある「安さ」「快適さ」「華やかさ」がどのように成り立っているのか、ふだん意識することがありません。しかし、ひとたび舞台裏に目を向けると、環境や人権をめぐるさまざまな問題が浮かび上がります。

「ワンコイン・シネマ・トーク」は、映像作品を見て、講師のお話を聞き、参加者みんなで語り合う場です。当たり前と感じているモノやコトについて議論し、私たちの社会のあり方を一緒に考えてみませんか？

9/30(月) 19:00~21:30

テーマ：市民調査がつなぐ日本とアジア—エビ研究のその後

■上映作品：『奪われたエビ』(1994年、33分)

講師：内海愛子(恵泉女学園 名誉教授) / 福家洋介(大東文化大学 准教授)



【内容紹介】 私たちの食べるエビはどこからどのようにやってくるのか？ 大量消費・大量輸入される身近なモノの来歴を市民の目線でたどることで解き明かされる、日本の私たちの暮らしとアジアの人びとの暮らしのつながり。

作品上映後には、故・村井吉敬さん、故・鶴見良行さんらとともにアジアを歩いた内海愛子さん、福家洋介さんのお二人にお話をうかがいます。東南アジア各地をとともに歩き、議論するなかで考えてきたこととは？「エビ研究からイワシ研究へ」という調査研究の歩みを通して見えてきたグローバル化時代の日本とアジアの姿とは？ 市民調査の過去・現在・未来を語り合います。

10/28(月) 19:00~21:30

テーマ：電気自動車とSDGsと鉱山問題

■上映作品：『スマホの真実—紛争鉱物と環境破壊とのつながり』(2016年、35分)

講師：田中 滋(アジア太平洋資料センター 事務局長)



【内容紹介】 私たちの暮らしに不可欠となったスマートフォンや小型電子機器。それらをつくるためには、通称「レアメタル」と呼ばれる希少金属を含む、20種類以上の鉱物が必要とされています。しかし、鉱物採掘は巨大な利権を伴い、しばしばそこに暮らす人びとの暮らしや自然環境に大きな影響を及ぼしています。身近なスマートフォンの内側に隠された調達の真実とは？

作品上映後には、本作の取材にあたったPARC事務局長・田中滋が、フィリピンとエクアドルの採掘現場の現在について報告。現地の人びとの声とどのように向き合い、採掘と調達のあり方を変えていくことができるのかを考えます。



PARC VIDEO & DVD

アジア太平洋資料センター (PARC) では、アジアの市民団体や研究者とのネットワークを活かして、世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供するオーディオ・ビジュアル作品をこれまで約50本制作してきました。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働、コンビニのある暮らしの裏側など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。

◆不特定多数の方への貸し出しを行なう場合、大学・学校の授業でご使用になる場合、研究機関に所蔵する場合は図書館価格になります。

◆自主上映会の開催につきましては、事務局までお問い合わせください。

【最新作品紹介】

『最後の一滴まで—ヨーロッパの隠された水戦争』

(DVD / 日本語字幕・吹替え / 59分)
定価 本体3,000円+税 (図書館価格: 本体10,000円+税)

誰のための水道民営化？ ヨーロッパ6カ国14都市の緻密な取材から浮かび上がる、水道民営化のもたらした現実と、民間企業が担ってきた水道サービスを公営に戻す「水道再公営化」の大きな潮流。日本でも進む水道事業への民間参入に疑問を投げかける、ギリシャ発のドキュメンタリー映画。

『甘いバナナの苦い現実』

(DVD / 78分)
定価 本体6,500円+税 (図書館価格: 本体15,000円+税)

日本で最も食べられている果物、バナナ。ところが、フィリピンの生産現場を訪れると、生産者や近隣住民は農薬の空中散布による健康被害を訴え、企業と契約を結んだ人々からも不透明で不正な契約に対する怒りの声が聞こえてきます。鶴見良行『バナナと日本人』の調査から約40年。バナナを通して世界と日本を見つめなおします。

アクションツアー沖縄 2019



平和の祈りを沖縄から

渦中の島、沖縄は私たちに多くの問いを投げかけます。

抵抗運動を続ける人びとへの警察や機動隊の弾圧は厳しくなる一方で日々緊迫した状況が現地では続いています。このツアーでは辺野古を訪問し、私たちも抗議の意思を訴えながら、基地や戦争に反対する思いを共にする人びとと交流します。沖縄の住民運動の原点ともいわれる金武湾反CTS（石油備蓄基地）闘争の現場となった浜比嘉島周辺も訪問します。

『海はひとの母である』と訴えた安里清信の思想に出会い、先人たちの実践に学びましょう。沖縄各地での活動の現場と歴史を巡り、人びとと出会いながら繋がり、私たちがそれぞれこれからどのようなかかわりができるのか共に考えてみませんか。学び、歩き、動き出すための旅です。

●日程：11/22(金)～11/25(月) 3泊4日

●参加費：58,000円

(宿泊費、1日目夕食代、2日目朝・昼・夕食代、3日目朝・昼・夕食代、4日目朝食、現地での移動費、入場料、保険代など込み)

※本ツアーは現地集合・現地解散となります。集合場所への交通は各自でご手配ください。

※25日昼の本ツアー解散後、希望者は南部戦跡・聖域オプションツアー（別途参加費4,000円。施設入場料は別途実費）にご参加いただけます。
※宿泊は原則として男女別の相部屋となります。

●定員：17名

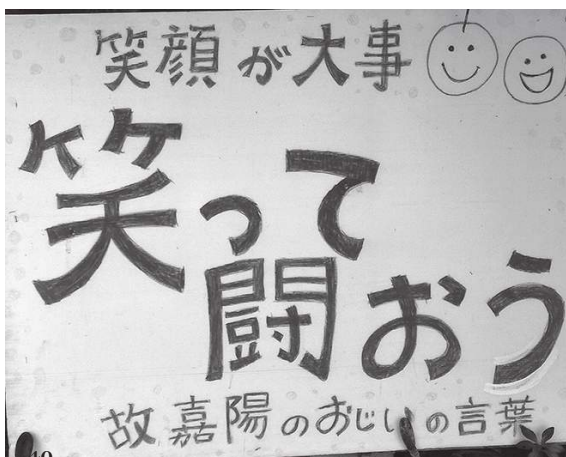
●申し込み締切：2019年10月31日(水)

※期限内でも定員に達し次第、締切とさせていただきます。

※締切後のお申込みについてはお問い合わせください。

案内人：太田武二（命どう宝ネットワーク 代表）

▶1949年宮古島生まれ。東京育ち。運転手として働きながら、さまざまな平和活動・集会に参加。沖縄を軍事拠点から平和の要へ変えるための運動の中で三線を弾き始める。自ら集会や芸能文化祭、スタディツアーなどを企画・開催。



●日程・プログラム(予定)

11/22(金)

- ・12:00 那覇空港 3階ロビー集合
- ・貸切バスにて読谷村に移動
- ・チビチリガマ、残波岬、座喜味城址など見学
- ・チビチリガマに設置された平和の像を制作した金城実さん(彫刻家)アトリエを訪問し、お話を伺う
- ・知花昌一さん(平和運動家)にお話を伺う
- ・読谷村に宿泊。民宿何我舎(ぬーがやー) 宿泊。BBQディナー

11/23(土)

- ・読谷村から辺野古へ移動
 - ・辺野古キャンプシュワブゲート前テントなど訪問
 - ・大浦湾を巡る船にも乗船
- 現地での天候、状況によっては中止になることもあります。ご了承ください
- ・浜比嘉島へ移動
 - ・浜比嘉島宿

11/24(日)

- ・浜比嘉島、その周辺見学
- ・金武湾闘争のお話を伺う
- ・午後、恩納村へ移動
- ・途中、万座毛見学
- ・仲西美佐子さん(恩納村出身。地元の環境・自然保護の中心メンバー)の手作り夕食をいただくとともに、自然保護・環境破壊と基地の関係についてお話を伺う
- ・恩納村宿泊

11/25(月)

- ・朝、恩納村から那覇へ移動
 - ・道中、道の駅(かでな)から嘉手納基地見学、嘉数高台公園から普天間基地見学
 - ・12:00 那覇空港1次解散
- ※解散後、希望者はランチ&南部戦跡と聖域をめぐるオプションルツアーに参加可能。糸数アブラチラガマ、玉城グスクを訪問予定。参加費4,000円(昼食付き、施設入場料は別途実費)
- ・17:00 那覇空港2次解散

〈注意事項〉 ※スケジュールは現地の状況・天候などにより変更になる場合があります ※本ツアーは那覇空港集合・解散になります

〈お申し込み・お問い合わせ〉

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター(PARC) 自由学校/担当:高橋
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F
Tel: 03-5209-3455 E-mail: office@parc-jp.org



あるがままの自分が認められる場所 「やまなみ工房」を訪問する旅

滋賀県甲賀市にある障害者のアート施設「やまなみ工房」は単なる障害者が通い、過ごす施設ではなく、誰もががあるがままの自分として認められる場所。それ故につくられるアート作品があり、それ故にたくさんの物語がある場所です。自由な気持ちになって、〈いのち〉と向き合い、共生社会の在り方を一緒に考えましょう。

案内人：中津川浩章（画家／アートディレクター／フリーキュレーター）



ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通したコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、様々な人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、被災地を含む全国各地へ。

- 日程：10月19日（土）～20日（日） 1泊2日
- 集合：10月19日（土） 11:30 JR草津線 甲南駅改札口付近
- 解散：10月20日（日） 14:00 ボーダレス・アート・ミュージアム NO-MA 付近
- 訪問先：やまなみ工房、ボーダレス・アート・ミュージアム NO-MA
- 宿泊：水口センチュリーホテル（予定）
- 参加費：30,000円（宿泊費、19日昼食費、夕食・交流会費、20日朝食費含む）

* 集合場所まで及び解散後の交通費は各自でご負担ください

【お申し込み・お問い合わせ】 特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC） 自由学校
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F 03-5209-3455 / office@parc-jp.org

「やまなみ工房」とは

自閉症や知的障害を持つ方々など約80名のアーティストと約20名のスタッフがともに過ごし、アート活動を行う施設。粘土や絵画に取り組む「アトリエころぼっくる」、刺繍や絵画に取り組む「こっちゃん」、健康のため散歩や運動に取り組みながら表現活動に取り組む「ぶれんだむ」、メンテナンス作業を中心に取り組む「もくもく」、古紙回収をはじめ様々な活動に取り組む「たゆたゆ」、CAFEを営業をする「hughug」の6つのグループに分かれて活動する。 これまでにもNHK教育テレビジョンの番組『バリバラ～障害者情報バラエティー～』内でも取り上げられるほかパリ、ニューヨーク等へも作品を多数送り出している。

ウェブサイト：<http://a-yamanami.jp/>





自由学校クラブ



自由学校クラブは、「やりたい」と思った受講生有志が自主的に集まり、呼びかけ、活動の中身やスケジュールをつくっていく、いわば「自由学校の課外サークル」です。講座の枠を超えてご参加いただける場です。原則としてどなたでもご参加いただけます。

○各クラブへのお問い合わせや参加申し込みは、それぞれの連絡先に直接ご連絡ください。

ビオダンサ 代々木の森 木曜クラス

日程

2019年 3/14、3/28、4/11、4/25、5/9、5/23
19:00～21:30

講師：内田佳子 (ビオダンサファシリテーター)

●参加費：1回3,000円

5回以上事前に日程を決めてお申込みいただき、5回以上分まとめて参加費をお支払いいただくと、1回あたり¥2,500となります。分割払いは2回までお受けします。

●場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
(最寄駅：小田急線参宮橋駅)

2018年度PARC自由学校で開催されたビオダンサクラス受講生の有志が、講座が開講しない期間も踊りたい！と立ち上げた自主クラスです。ビオダンサが初めての方も経験者の方も大歓迎です。

単発でのご参加もできますので、ちょっと気になっていた方、お試してみたい方もお気軽にいらしてください！一緒に踊りましょう！

◎最新情報・詳細はこちらから

<https://www.facebook.com/events/370054870233406/>
※facebook内「ビオダンサ 代々木の森 木曜クラス」で検索してください。

■ビオダンサとは

ビオダンサ (biodanza) とはスペイン語で「生命のダンス」を意味します。南米チリの教育者、人類学者、心理学者の Rolando Toro Mario Araneda が、人間の潜在力の回復をめざして構築したダンス・ワークです。初めての方も、経験者の方も一緒に体験出来るクラスです。

■申し込み方法

お申込みの際は件名を「ビオダンサ 代々木の森 木曜クラス申込み (日付、お名前)」とし、本文に以下の5点をご記載の上、「biodanza2017@gmail.com」宛に申込みメールをお送り頂ください。

1. お名前
2. 連絡先メールアドレス
3. 電話番号
4. ビオダンサの経験有無
5. このイベントを知ったきっかけ (ビオダンサHP、PARC、友人から等)

※代々木の森クラスに一度以上参加された方は、1. お名前と 5. ご参加日のみお送りください。

※必ず前日までにご連絡ください。担当者からの返信をもって受付完了となります。



高松田んぼの会

- 4月～10月 月1～2回(8月を除く)
- 参加費: 交通費実費。車で来られる方も歓迎です。
- 場所: 高松田んぼの会共同田んぼ
JR常磐線石岡駅よりバス(約20分)
- 連絡先: info@commonsonline.co.jp (大江)

高松田んぼとは茨城県石岡市にある約30アールの共同田んぼです。始めた人の名前にちなんで、こう呼んでいます。この会では、米づくり全般をメンバーが協力して行ないます。農業と化学肥料は一切使いません。田植えはすべて手植え、稲刈りはバインダーという簡単な機械と手刈りです。活動日は基本的に土日で、現地に集合して一緒に作業を行います。もちろん参加できる日で結構です。作業はベテランの方々が優しく丁寧に教えてくれますので全くやったことのない人でも大歓迎です。米作りを体験したい人、半農半Xを目指す人、自然が好きな人…どなたでも気軽にご連絡下さい。

☆収穫したお米はみんなで購入できます。(白米/玄米/もち米)

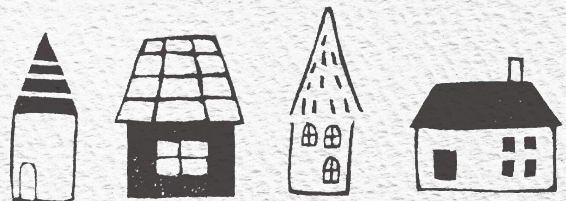


クルブ・アンディーノ

- 基本的に月1回、金曜日19:00～21:00 ● 講師: 藤田 護 (慶應義塾大学環境情報学部 専任講師)
- 参加費: 1回1000円 ● 場所: 原則としてPARC自由学校教室 ● 連絡先: clubandino2017@gmail.com (野澤)

南米アンデス先住民族の言語「アイマラ語」講座が サークル活動として続きます。スペイン植民地初期のアンデス先住民の信仰や習慣について、ケチュア語で記された「ワロチリ文書」を読み解くため、初歩からケチュア語を学んでいます。各回に日本語で制作された教材でケチュア語 やアイマラ語を学びます。スペイン語の予備知識は不要です。

初めての参加も歓迎です。開催日についてはお問い合わせください。



戦後史を学び、展望を模索する会

- 原則として月1回、月曜日19:00~21:00 ●代表：07年度『検証戦後史』クラス受講生有志
- 場所：原則としてPARC 自由学校教室 ●連絡先：office@parc-jp.org (PARC事務局)

2007年の『検証戦後史』の講座から生まれた読書会です。戦後70年あまり経ち、最近では、まるで日本には戦争の経験などないかのような言論が増えています。私たちは、「戦争」と「戦後」の記憶を、何度でも心に刻み直さなくてはいけないのではないかと。このクラブは、歳月の力に押し負けないため、さまざまなテキストを通じ、ときには著者も招いて議論を試みる、誰にでも開かれた小さな集まりです。たとえ拙くても自分の言葉で話すこと、正直な議論の場であることを願っています。

現代短歌を読む・詠む

- 原則として毎月第2月曜日13:30~ ●講師：久々湊 盈子 (歌人/千葉県歌人クラブ会長/現代歌人協会会員/歌誌「合歓」発行人/「東京新聞・千葉版」歌壇選者) 歌集『あらばしり』『鬼籠子』『世界黄昏』など9冊
- 参加費：月2,000円 ●場所：原則としてPARC 自由学校教室
- 連絡先：047-347-5163 / nemunokai@mse.biglobe.ne.jp (久々湊)

短歌を作るということは、すなわち、自分を考えることです。言葉を考え、社会を考え、生きている意味を考えることです。すぐれた短歌を読み、自己表現の手段として短歌を作ってみませんか。まったく初めてという方も大歓迎です。

ムビラクラブ

- 原則として月1回、金曜日19:00~21:00 ●代表：2014年度『親指ピアノの世界へようこそ!』クラス受講生有志
- 参加費：1回2500円(※ムビラレンタル料：500円) ●場所：PARC 自由学校教室 ほか
- 連絡先：090-9132-3602 / masa@mbiravakanaka.com (マサ)

2014年度開講の「親指ピアノの世界へようこそ!」クラス参加者有志で続けているムビラ演奏サークルです。ムビラとは、アフリカ・ジンバブエ・ショナの人たちに伝わる伝統楽器。一定の旋律を繰り返して続け、刻まれるポリリズムに乗ってゆくことにより儀式の中で精霊と語る為の通信機器でもあります。関東近郊の他ムビラサークルとの交流や、時折「セブンデイズ」の名でライブ出演もあります(セブンデイズ：ジンバブエで儀式の際に回し飲みされる醸造酒の名前)。初めての方でもレンタルムビラをご用意することが可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。



人と暮らしに出会う旅

パルシクの民際協力事業の現場で、人びとと触れ合い、体験し、文化や歴史を学びます。2019年度は4回の海外ツアーと、国内ツアーを予定しています。事業担当スタッフがご案内しますので、お一人様でのご参加も大歓迎です！

現地プログラム企画：特定非営利活動法人 パルシク/旅行企画：株式会社 風の旅行社/受託販売：株式会社 ピース・イン・ツアー

東ティモール アイナロ県 マウベシ郡

美味しいコーヒーに出会う旅

●開催日：2019年8月16日(金)～25日(日) 10日間

●旅行代金：調整中(昨年の実施例：293,000円)

毎年人気のフェアトレードコーヒー生産者を訪ねるツアー。標高1,300メートルの山々に囲まれたアイナロ県マウベシ郡のコーヒー農家を訪ね、コーヒー豆の収穫、加工作業を手伝い、農家宅での民泊を体験します。新鮮なコーヒーを飲み、生産者と語り合います。



東ティモール マウベシ：コーヒーを加工する農家

スリランカ 南部 マータラ県 デニヤヤ

おいしい紅茶のルーツを訪ねる旅

●開催日：2020年3月16日(月)～3月24日(火) 9日間(成田発着) 予定

●旅行代金：調整中(昨年の実施例：223,000円)

インド洋に浮かぶ光り輝く島、スリランカ。その豊かな自然の中で、紅茶栽培の有機転換に取り組む小規模農家。シンハラージャ森林保護区に隣接する茶畑で、地域の自然や人びとの安全を守るための、持続可能な仕組みづくりを共に応援しませんか。紅茶農家にホームステイし、人びとの暮らしに触れながら、学ぶ旅です。



スリランカ デニヤヤ：有機茶畑の風景

スリランカ 北部 ジャフナ、ムライティス、コロンボ

スリランカ北部 文化と自然に触れる旅

●開催日：2019年8月25日(日)～9月1日(日) 8日間(成田発着) 予定

●旅行代金：調整中

ヒンドゥー教のお祭りを訪問して礼拝に参加し、ジャフナの水産物を使ったタミルの伝統的なスープやカレーを食べするなどタミル人の文化を体験します。皮肉にも、内戦で人の出入りが制限されたために守られてきた自然(鳥類保護区など)に触れる旅です。



スリランカ ジャフナ：キーリマライの泉の前に立つマンダース像

マレーシア ペナン、イポー、クアラルンプール

マレーシア歴史と植林のツアー

●開催日：2019年12月24日(火)～30日(月) 7日間 予定

●旅行代金：調整中

パルシクが長年応援している漁民グループによるマングローブ植林の事業地を訪問して植林をするとともに、植民地時代からの歴史が残るペナンの町を歩き、その後、イポー、クアラルンプールへと歴史の跡を辿りながら南下します。



マレーシア ペナン：ジョージタウンにあるプラナカンハウス

国内

国内 エクスポートツアー

●時期・訪問地・旅行代金(未定)

国内の有機農業生産者グループの訪問など、歩き、人びとの話を聞く旅を企画します。

※ツアー日程、旅行代金は変更になる場合があります。お申し込み前にお問い合わせください。各ツアーの詳細は、右ページ連絡先へお問い合わせください。

国際協力とフェアトレードのパルシック

パルシック (PARCIC) は2008年4月にPARCが組織分割をして誕生したNPO法人です。国境を越えて、人と人が信頼に基づき協力する「国際協力活動」として、東ティモールやスリランカ、マレーシアでの生計向上支援、トルコやレバノンでのシリア難民支援、パレスチナやインドネシアでの緊急救援、国内での居場所づくりなどを実施しています。

1Fパルシック事務所にお立ち寄りください

パルシックのフェアトレード商品(東ティモール産コーヒー、ハーブティー、スリランカ産紅茶)を、自由学校教室の1階、パルシック事務所で販売しています。ラッピングしたギフトセットやお手土産もすぐにお渡しできます。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

・営業時間: 10:00~19:00頃(土日祝休)



スリランカ産ルフナ紅茶
各種700円(税別)

東ティモール産コーヒー
200g入 700円

【ご寄付のお願い】

パルシックの事業を支えてください

パルシックはアジアの国々での国際協力事業を通じて、人びとが尊厳を持ち人間らしい生活ができる世界を目指しています。あなたの寄付で、ぜひパルシックの活動を支えてください。事業や活動地を指定してご寄付いただくこともできます。みなさまのご寄付を心よりお待ちしております。

※パルシックは税控除の対象となる認定NPOです。



寄付送付先

●銀行振込

三井住友銀行 神田支店 普通 2384136

特定非営利活動法人パルシック

●郵便振替

郵便振替口座: 00140-8-536957

口座名: パルシック

●クレジットカードでのご寄付はこちら



<https://www.parcic.org/donation/donate/>

◎オンラインショップ パルマルシェ: <http://parmarche.com>



parcic



parcic_office



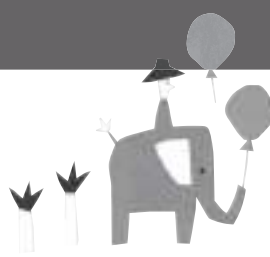
parcic_tokyo

〈お申し込み・お問い合わせ〉

特定非営利活動法人パルシック

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F

Tel: 03-3253-8990 Fax: 03-6206-8906 Email: office@parcic.org



受講登録の流れ

STEP1:お申し込み

1)お名前、2)ご連絡先、3)ご希望されるクラス、4)過去の受講経験等をご連絡ください。

ウェブサイトからのお申し込み

<http://www.parcfs.org/>

電子メールでのお申し込み

office@parc-jp.org

ハガキ、電話、FAXでのお申し込み

〒101-0063
東京都千代田区
神田淡路町1-7-11 3F
TEL:03-5209-3455
FAX:03-5209-3453

PARC事務局で直接お申し込み

〒101-0063
東京都千代田区
神田淡路町
1-7-11 3F

STEP2:お申し込み内容の確認

ご入金前にお申し込み内容の確認をし、ご希望されるクラス、ご連絡先など間違いがないかご確認ください。
万が一間違いがあった場合はお電話・メールなどでPARC事務局までお知らせください。

お申し込み確認画面で表示された内容をご確認ください

※画面に表示された内容は電子メールでもお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を電子メールにてお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を郵送・あるいはFAXでお送りいたします

その場で担当者とお申し込み内容の確認をします

STEP3:ご入金

ご入金の案内に沿ってご入金ください。クレジットカードのご利用はウェブサイトでの申し込みの場合のみご利用いただけます。お申し込み内容の確認後、2週間以内にご入金いただけない場合はキャンセルとみなす場合がありますのでご注意ください。

申し込み画面にてクレジットカードで決済

※VISA、MASTERCARDのみご利用いただけます

お申し込み内容の確認後、2週間以内に郵便局またはゆうちょ銀行にてご入金ください

その場で現金でお支払いいただけます

受講登録完了

ご入金を確認できた時点で受講登録手続き完了となります。

なお、入金確認のご連絡や受講登録証書の発行などは行っておりません。領収証の発行をご希望される方はご入金後にPARC事務局までご連絡ください。

受講登録完了

開講2週間前に講座の成立・不成立に加えて、初回の案内をメール・郵送にてお送りいたします。

なお、一度ご入金いただいた受講料は講座不成立の場合を除き払い戻しできませんのでご了承ください。

自由学校入学金について

自由学校を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。

(PARC自由学校の入学金はPARC会員の会費ではありませんのでご注意ください。)

入学金・受講料とも原則として一括でお支払いください。

お支払いいただいた入学金・受講料は、講座不成立の場合を除き、払い戻しできませんのでご了承ください。(消費税はすべて内税です。)

PARC自由学校のシステムについて

○自由学校入学金って？

PARC自由学校を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。一度PARC自由学校に入学登録された方は以降の年度での入学金は不要です。入学金をお支払いいただいた方には毎年受講申し込み受付を開始した時期にパンフレットの郵送やメールにてご案内いたします。

○単発受講はできるの？

原則として、PARC自由学校に通して受講登録いただいた方とPARC会員の方のみ、単発受講が可能です。自由学校では自分の申し込んだクラス以外で関心があるクラスの講義を単発で受講することができるサービスとしてこれを「越境受講」と呼んでいます。パンフレットやウェブサイト、メールでのお知らせなどを見て「ぜひ受けてみたい」というクラスがありましたら、メールや電話でお申し込みの上、当日一回分の越境受講料をお支払いいただきご参加ください。

※ことばの学校など、一部越境受講できないクラスがあります。詳細につきましては事務局までお問い合わせください。

その他

○自由学校のクラスを申し込むと何かサービスや特典があるの？

連続講座を一講座お申し込みにつき、特典として他のクラスを一回無料で単発受講できる「越境チケット」を一枚プレゼントいたします。ぜひご利用ください。

○欠席して講義を聞きそびれた！

「欠席した回の配布資料がほしい」「出席したかも一度聞き返したい」「資料をなくしてしまった」という方のために、講義の音声は毎回録音しており、音声ファイルと配布資料をクラス受講生専用ウェブページからダウンロードすることができます。ご都合により参加できなかった場合や復習などにぜひご利用ください。

※出かける回や外での作業中心のクラスなど録音されないクラスもあります。

*受講料の一括納入が困難な方は、事務局までご相談ください。場合によっては分割納入などご相談に応じます。

*PARCの諸活動をお手伝いいただくこと(25時間以上)で、入会金が免除になる制度もあります。

*このパンフレットを送ってほしいお友達などご紹介いただければ、こちらから郵送にてお送りいたします。TEL・FAX・ハガキ・Eメールにてお知らせください。

受講を申し込みたい方は

ウェブサイトから、または電話・メール・FAXで必要事項をご記入の上、お申込みください。※48ページの「受講登録の流れ」も併せてご覧ください。

申し込み締切：2019年5月14日（火）必着

お申し込み後、請求書と郵便振替用紙をお送りしますので、郵便局でお支払いください。ウェブサイトからのクレジット決済も可能です。

受講料のお支払いをもってお申し込み手続きの完了となります。先着順で定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申込みください。

アジア太平洋資料センター (PARC) PARC自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel:03-5209-3455 Fax:03-5209-3453 Email:office@parc-jp.org

郵便振替 00100-2-606697 PARC自由学校 ゆうちょ銀行 ○一九支店 (019) 当座口座 0606697 PARC自由学校

このハガキを切り離して郵送(切手不要)、またはFAXでお送り下さい。5月14日(火)必着

キリトリ線

自由学校受講申込書

講座No.	講座名
ふりがな	
お名前	
生年月日	19 年 月 日
ご住所 〒	
TEL 携帯電話	FAX
必須(メールのない方はその旨ご記入下さい) E-mail	
その他の連絡先(急な休講時のご連絡のため) TEL	

キリトリ線

●自由学校への参加は

1. はじめて 2. 以前受講していた
(年 クラス)

●PARC会員ですか

1. はい 2. いいえ

●自由学校をどのようにして知りましたか

1. 新聞・雑誌で(メディア名) ()
 2. 友人・家族・知人から聞いて ()
 3. 集会・イベントで(集会・イベント名) ()
 4. 置いてあったパンフレット・リーフレットを見て ()
 (置いてあった場所)
 5. パンフレットが送られてきたから ()
 6. Eメールで(メーリングリスト名など) ()
 7. PARCホームページ、またはtwitter・Facebookを見て ()
 8. 他のホームページを見て(サイト名) ()
 9. その他() ()

●ご職業

1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. アルバイト/パート 5. 主婦/夫
 6. 学生 7. その他 ()

PARC自由学校 2019 access map

pacific asia resource center freedom school

●地下鉄A5出口から徒歩2分

都営新宿線「小川町」 東京メトロ丸の内線「淡路町」または千代田線「新御茶ノ水」 ※いずれの駅も地下でつながっています

●JR「御茶ノ水」聖橋口から徒歩6分



お友達をご紹介いただければ
パンフレットをお送りします。

お名前

ご住所

ここ1、2年で住所を変更された方は
旧住所をご記入下さい。

旧住所

発行有効期間
2019年
10月31日まで

2750

料金受取人
神田承認

東京都千代田区
神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

アジア太平洋資料センター
PARC自由学校 行



郵便はがき
101-8791
014